

事業計画書（様式2）

学校名・部活動名	福島市立西信中学校・バスケットボール部	顧問・外部指導者名	宍戸啓光・清水貞夫	電話/FAX	024-493-1049 / 024-593-4756	Email	seishinj@ht-net21.ne.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 自主的活動を通して、生徒一人ひとりの個性や能力の伸長を図り、創造力、実践力を育成する。</p> <p>(2) 集団の一員としての役割を持たせ、自己存在感を味わわせる。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) リーダーを中心に互いに協力し合って、目標に向かって根気強く活動に取り組む態度を育てる。</p> <p>(2) 段階的・計画的な練習を通して、充実感や満足感を味わわせる。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 勝ちたい、自分を鍛えたいという気持ちから、もっと練習をしたいという生徒が多い。</p> <p>(2) どんな試合でも1回は試合に出場したいと願っている。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 技術の習得と同時に、集団活動における望ましい人間関係の育成に努める。</p> <p>(2) 学年差・性差・技術差等の個人差や、中学生としての生活バランスを確保した活動の量と質を考慮して指導にあたる。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) コミュニケーション活動を重視し、仲間のことを考えたプレーができる集団を目指す。</p> <p>(2) 個人の長所を生かしたポジションを体験させ、チーム内での存在感を味わわせる。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 成長期の食事摂取の大切さと早寝の生活リズムの習慣化を意識させる。</p> <p>(2) 週1日は休養日とする。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行う。</p> <p>(2) 部長会を通し、運動前の準備運動を念入りに行わせる。</p> <p>(3) 活動場所の整理整頓を意識させ、防犯に努める。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 大会の時期や準備期にあわせ、技能習得練習と体力向上練習また個人練習とチーム練習、自主練習等の量と質のバランスを考慮する。</p> <p>(2) 練習したことを試合で実践できるように、常に課題意識を持たせ取り組ませる。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 部長・副部長と練習内容の確認をしながら、部内の問題点等について早期把握と対応にあたる。</p> <p>(2) 練習試合や大会後、技能面や態度面からの個別指導を行い、自信と意欲につなげる。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 保護者会総会において、顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 全体練習の時は、主スタッフの指示のもと練習を行い、サブスタッフが巡回指導にあたる。</p> <p>(2) 男女別や学年別、体験別毎に時間をずらしたり、練習内容を変えたりして、運動量の確保に努めながら全体のレベルアップを図る。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者に顧問から、部員の学校生活の様子について情報を提供し、共通理解を図る。</p> <p>(2) 外部指導者から顧問に、練習内容や練習方法等を提供してもらい、毎日の練習に取り入れる。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式・校外学習	定期テスト①	定期テスト②	ドリルアップ事業・終業式	始業式		学校祭定期テスト③	定期テスト④	終業式	始業式	定期テスト⑤	球技大会・卒業式・修了式
各種大会の予定			支部大会 県北大大会	県大会		支部新人大会	協会主催大会	県新人大会		協会主催大会		
練習試合・遠征等	週末に半日の練習試合を設定	連休中・週末に練習試合を設定	大会期間を除き、週末に練習試合を設定		週末に半日の練習試合を設定	大会期間を除き、週末に練習試合を設定	大会期間を除き、週末に練習試合を設定	週末に半日の練習試合を設定	大会期間を除き、週末に練習試合を設定			週末に半日の練習試合を設定
シーズン区分	準備期	充実期	試合期	準備期	充実期	試合期	試合期	準備期	準備期	試合期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・大会に向けてチームとしての攻防練習 ・実践と課題解決練習	・練習試合での実践 ・課題確認と解決練習 ・個人シュート力の強化練習	・チームとしての攻防の確認と実践 ・個人シュート力の強化練習	・個人技能の習得に向けたトレーニング ・筋力、全身持久力を高めるトレーニング	・大会に向けてチームとしての攻防練習とともに個人技能習得練習 ・実践と課題解決練習	・チームとしての攻防の練習と実践 ・課題確認と解決練習	・チームとしての攻防の練習と実践 ・課題確認と解決練習	・個人技能の習得に向けたトレーニング ・筋力、全身持久力を高めるトレーニング	・大会に向けてチームとしての攻防練習と実践 ・個人シュート力の強化練習	・チームとしての攻防の練習と実践 ・筋力、全身持久力を高めるトレーニング	・個人技能の習得に向けたトレーニング ・個人の全身持久力強化トレーニング	・チームとしての攻防の練習と実践 ・個人の全身持久力強化トレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島市立西信中学校・卓球部	顧問・外部指導者氏名	大塚 梨奈・佐々木 一雄	電話/FAX	024-493-1049/024-593-4756	Email	seishinj@ht-net21.ne.jp
学校全体に関わって	各部の計画		部員の現状・配慮事項等				
学校全体の活動目標 (1) 自主的活動を通して、生徒一人ひとりの個性や能力の伸長を図り、創造力、実践力を育成する (2) 集団の一員としての役割を持たせ、自己存在感を味わわせる。	各部の活動目標 (1) 目標に向かって、部員一人ひとりが自ら考え、判断し、仲間と協力しながら最後までやり抜く強い意志と態度を育成する。 (2) 個人の長所を生かした指導を行い、チームにおける自己存在感を持たせる。		部員のニーズや要望・意見 (1) 基礎を確実に身につけ、技能を向上させ、大会で勝ちたいと考えている生徒が多い。 (2) 週末も休まずに練習したいと考えている生徒が多い。				
学校全体の指導方針 (1) 技術の習得と同時に、集団活動における望ましい人間関係の育成に努める。 (2) 学年差・性差・技術差等の個人差や、中学生としての生活バランスを確保した活動の量と質を考慮して指導にあたる。	各部の指導方針 (1) 仲間のことを考えてプレーができ、お互いに切磋琢磨できる集団を形成するため、ミーティングなどで互いの考えを共有する時間を持ち、よりよい人間関係を構築させる。 (2) シングルスとダブルスの両方ができる選手になるように、技術の向上を図る。		部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 週1日の休養日を設定する。週末に連続して試合があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 食生活などの生活リズムを整え、疲労が蓄積しないようにする。				
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行う。 (2) 部長会を通し、運動前の準備運動を念入りに行わせる。 (3) 活動場所の整理整頓を意識させ、防犯に努める。	各部の指導内容 (1) 段階に応じた指導を行う。準備期には基礎を中心に個人技能と体力の向上を目指す。 (2) 練習や練習試合において、常に課題意識を持たせて取り組ませる。		部員とのコミュニケーションの方策 (1) 部長・副部長と練習内容を確認し、指導や支援の改善に生かす。 (2) 定期的なミーティング開催と、意図的なチャンス相談を行い、練習や試合、部内の問題点などについて早期把握と早期対応に努める。				
保護者等への説明機会 (1) 保護者会総会において、顧問から活動目標について説明する機会を設定する。	各部の指導方法 (1) 顧問の指示のもとに練習を行い、休日は外部指導者と相談しながら練習を進める。 (2) 体育館の練習と外での練習を効率よく行い、適切な運動量を確保しながら技能面と体力面のレベルアップを図る。		指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問と打ち合わせを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者からも練習の内容や練習方法等の情報を入手し、日々の練習に取り入れる。				

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 校外学習	定期テスト①	定期テスト②	ドリフアップ事業 終業式	始業式		定期テスト③ 学校祭	定期テスト④	終業式	始業式	定期テスト⑤	球技大会 卒業式 修了式
各種大会の予定	協会主催大会	協会主催大会	支部大会 県北大会	県大会	協会主催大会	支部新人大会				協会主催大会	西地区卓球大会	
練習試合・遠征等	週末に練習試合を 設定	連休中・週末に練習 試合を設定	大会期間を除き、 週末に練習試合を 設定		週末に練習試合を 設定	大会期間を除き、 週末に練習試合を 設定	大会期間を除き、 週末に練習試合を 設定	週末に練習試合を 設定	週末に練習試合を 設定	大会期間を除き、 週末に練習試合を 設定		週末に練習試合を 設定
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	準備期	充実期	試合期	試合期	準備期	準備期	試合期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・大会に向けてチ ームとしての連 携練習 ・実践と課題解決 練習 ・筋力・全身持久 力の強化	・大会に向けてチ ームとしての連 携練習 ・練習試合の実践 と課題確認、解 決練習 ・個人技能の強化	・大会に向けてチ ームとしての連 携練習 ・練習試合の実践 と課題確認、解 決練習 ・筋力・全身持久 力を高めるトレ ーニング	・個人技能の習得 に向けたトレー ニング ・個人技能の強化、 基本的なレシー ブや、サーブの 習得 ・筋力・全身持久 力を高めるトレ ーニング	・大会に向けてチ ームとして連携 練習。 ・練習試合の実践 と課題確認、解 決練習	・大会に向けてチ ームとして連携 練習。 ・練習試合の実践 と課題確認、解 決練習	・大会に向けてチ ームとして連携 練習。 ・練習試合の実践 と課題確認、解 決練習 ・個人技能習得に 向けたトレーニ ング	・個人技能の習得 に向けたトレー ニング ・チームとしての 連携練習 ・筋力・全身持久 力を高めるトレ ーニング	・個人技能の習得 に向けたトレー ニング ・チームとしての 連携練習 ・筋力・全身持久 力を高めるトレ ーニング	・練習試合の実践 と課題確認、解 決練習 ・チームとしての 連携練習 ・筋力・全身持久 力を高めるトレ ーニング	・個人技能の習得 に向けたトレー ニング ・チームとしての 連携練習 ・筋力・全身持久 力を高めるトレ ーニング	・練習試合の実践 と課題確認、解 決練習 ・チームとしての 連携練習 ・筋力・全身持久 力を高めるトレ ーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島市立西信中学校・バレーボール部	顧問・外部指導者氏名	斎藤佳代・安西一彦	電話/FAX	024-493-1049/024-593-4766	Email	seishinj@ht-net21.ne.jp
学校全体に関わって	各部の計画			部員の現状・配慮事項等			
学校全体の活動目標 (1) 自主的活動を通して、生徒一人ひとりの個性や能力の伸長を図り、創造力、実践力を育成する (2) 集団の一員としての役割を持たせ、自己存在感を味わわせる。	各部の活動目標 (1) 目標に向かって、部員一人ひとりが、自ら考え、判断し、仲間と協力しながら最後までやり抜く強い意志と態度を育成する。 (2) 個人の長所を生かした指導を行い、チームにおける自己存在感を持たせる。			部員のニーズや要望・意見 (1) 技能を向上し、大会で勝ちたい、活躍したいと考えている生徒が多い。 (2) 週末も休まず練習したいと考えている生徒もいるが、塾や習い事で早退や欠席を希望する生徒も多い。			
学校全体の指導方針 (1) 技術の習得と同時に、集団活動における望ましい人間関係の育成に努める。 (2) 学年差・性差・技術差等の個人差や、中学生としての生活バランスを確保した活動の量と質を考慮して指導にあたる。	各部の指導方針 (1) 仲間のことを考えたプレーができる、お互いに切磋琢磨できる集団を形成するため、コミュニケーション活動を重視し、よりよい人間関係を構築させる。 (2) 個人の長所が生かされるポジショニングを行う。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 大会等がない週休日はいずれか1日を休業日とする。週末に連続して試合があった場合は、翌日を休業日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える生徒には通院や休養を指示するとともに、予防の指導(食生活や睡眠、正しい生活リズム)を行い、スポーツ障害や疲労が蓄積しないようにする。			
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行う。 (2) 部長会を通し、運動前の準備運動を念入りに行わせる。 (3) 活動場所の整理整頓を意識させ、防犯に努める。	各部の指導内容 (1) 段階に応じた指導を行う。準備期には基礎基本を中心に個人技能と体力面での向上を目指し、試合期にむけて個人練習とチーム練習を生徒の状況に応じて計画的に行う。 (2) 練習や練習試合において、常に課題意識を持たせて取り組ませる。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 部長・副部長と練習内容を確認し、指導や支援の改善に生かす。 (2) 定期的なミーティングと、意識的にチャンス相談を行い、練習や試合、部内においての問題点等について早期把握と早期対応に努める。			
保護者等への説明機会 (1) 保護者会総会において、顧問から活動目標について説明する機会を設定する。	各部の指導内容 (1) 顧問の指示のもと練習を行い、休日は外部指導者と相談しながら練習を進める。 (2) 体育館の練習と外の練習を効率よく行い、運動量を確保しながら技能面、体力面のレベルアップを図る。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問と打ち合わせを行い、それぞれの部員学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者からも練習の内容や練習方法等の情報を入手し、日々の練習に取り入れる。			

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 校外学習	定期テスト①	定期テスト②	ドリフアップ 事業 終業式	始業式		定期テスト③ 学校祭	定期テスト④	終業式	始業式	定期テスト⑥	球技大会 卒業式 修了式
各種大会の予定			支部大会 県北大会	県大会		支部新人大会	協会主催大会			協会主催大会		
練習試合・遠征等	週末に練習試合を設定	連休中・週末に練習試合を設定	大会期間を除き、週末に練習試合を設定		週末に練習試合を設定	大会期間を除き、週末に練習試合を設定	大会期間を除き、週末に練習試合を設定	週末に練習試合を設定	週末に練習試合を設定	大会期間を除き、週末に練習試合を設定		週末に練習試合を設定
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	準備期	充実期	試合期	試合期	準備期	準備期	試合期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・大会に向けてチームとしての連携練習 ・実践と課題解決練習 ・筋力・全身持久力の強化	・大会に向けてチームとしての連携練習 ・練習試合の実践と課題確認、解決練習 ・個人技能の強化	・大会に向けてチームとしての連携練習 ・練習試合の実践と課題確認、解決練習 ・筋力・全身持久力を高めるトレーニング	・個人技能の習得に向けたトレーニング ・個人技能の強化、基本的なパス力、サーブ力の習得 ・筋力・全身持久力を高めるトレーニング	・大会に向けてチームとして連携練習。 ・練習試合の実践と課題確認、解決練習	・大会に向けてチームとして連携練習。 ・練習試合の実践と課題確認、解決練習	・大会に向けてチームとして連携練習。 ・練習試合の実践と課題確認、解決練習。 ・個人技能習得に向けたトレーニング	・大会に向けてチームとして連携練習。 ・チームとしての連携練習 ・筋力・全身持久力を高めるトレーニング	・個人技能の習得に向けたトレーニング ・チームとしての連携練習 ・筋力・全身持久力を高めるトレーニング	・個人技能の習得に向けたトレーニング ・チームとしての連携練習 ・筋力・全身持久力を高めるトレーニング	・個人技能の習得に向けたトレーニング ・チームとしての連携練習 ・筋力・全身持久力を高めるトレーニング	・練習試合の実践と課題確認、解決練習 ・チームとしての連携練習 ・筋力・全身持久力を高めるトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	川俣町立川俣中学校・フェンシング部	顧問・外部指導者氏名	野田典彦 秦 秀行 ・ 今野 勝	電話/FAX	024-566-4111	Email	hata-hideyuki@town.kawamata.lg.jp
学校全体にかかわって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 揺れ動く青年前期にあたる中学生の生活に目標を持たせ、生徒一人一人の能力や適性の伸長を図るとともに有意義な中学校生活を送らせる。</p> <p>(2) 共通の目標達成のための学年・学級の枠を超えた集団生活を通して自己の役割を自覚させ、生徒の自主性や望ましい社会性を育てる。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) フェンシング部活動の練習や大会へ参加することを通して、フェンシングの技能の向上を図る。また、体力や忍耐力といった心身の成長を図る。</p> <p>(2) 同学年および上級生、下級生のつながりを通して人間関係の作り方、つきあい方、言葉遣い、気配りの仕方などを学ばせる。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 小学校のスポ少から継続してフェンシングの練習に励み、東北、全国規模の大会に出場経験のある生徒と中学校入学時に興味を持って入部した生徒が混在している。</p> <p>(2) フェンシングは用具、遠征等に費用がかさむため、支援してほしいとの要望がある。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 生徒指導の一環として、生徒は可能な限りいずれかの部に所属させ、部活動の計画により教育的配慮をしながら指導する。</p> <p>(2) 各部の顧問は、年度当初に学校長より任命される。全職員が全生徒を指導するという意識のもと生徒に接するように努める。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 学校生活を第一とし、学業にしっかり取り組み、規律正しい日常生活を送ることが部活動参加の前提条件とする。</p> <p>(2) 3年間継続してフェンシング部の練習に積極的に参加し、技能向上に努めさせる。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内服務倫理委員会において体罰・いじめ・セクハラ等防止のための研修会を定期的実施する。また、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 練習日程は、月ごとに外部指導者と打ち合わせをして計画を立てる。</p> <p>(2) 初心者(1年生)、経験者(2, 3年)それぞれにあわせて練習内容を考えて指導していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初心者は体力作りから始まり、ルールや基本用語の習得、基本動作の確認など ・経験者は対戦を想定したレッスン、実践練習など 			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導者が目を通し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 指導者が意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 顧問、外部指導者が連携をとり、顧問は基本的な体力作りの指導、外部指導者は実践的な技能の指導を中心とするなど分担して指導していく。</p> <p>(2) 川俣高校フェンシング部と連携し、高校生にも練習を指導してもらい機会を持つ。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生返入部	定期テスト①	定期テスト②	終業式	始業式		定期テスト③ 文化祭	定期テスト④	終業式	始業式	定期テスト⑤	卒業式・修了式
各種大会の予定		東日本大会 福島県大会		県総体 全国大会	東北総体	川俣町大会				JOC大会		東北大会
練習試合・遠征等	週末に川俣高校との合同練習会を設定	東日本大会のため 東京へ遠征		全国大会のため 東京へ遠征	東北総体(川俣町)で開催に参加 協力	週末に川俣高校との合同練習会を設定	週末に川俣高校との合同練習会を設定	週末に川俣高校との合同練習会を設定	週末に川俣高校との合同練習会を設定	JOC大会のため 東京へ遠征	週末に川俣高校との合同練習会を設定	東北大会のため遠征
シーズン区分)	準備期 充実期	試合期	準備期	試合期	試合期	試合期	準備期	準備期	充実期	試合期	準備期	試合期
活動内容・ねらい	・新入生は体力作り、ルール等の習得 ・大会へ向けて実践を想定したトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自の課題に応じた技能向上のためのトレーニング	・筋力、持久力の向上を目指したトレーニング ・各自の課題に応じた技能向上のためのトレーニング	・筋力、持久力の向上を目指したトレーニング ・各自の課題に応じた技能向上のためのトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・筋力、持久力の向上を目指したトレーニング ・各自の課題に応じた技能向上のためのトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	川俣町立山木屋中学校スケート部	顧問・外部指導者氏名	加藤芳史 鹿目秀樹 (外) 佐藤光正	電話/FAX	Ta024-538-1960/FAX538-1961	Email	yamakiya-chu@town.kawamata.lg.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通して技能の向上及び健全な身体と精神の育成を図り、人間性豊かな人格の形成を目指す。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 県中学校スケート大会での上位入賞、及び東北大会、全国大会への出場を目指す。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) スケートの技術を高め、大会での上位入賞や上位大会への出場を果たしたいという希望を持っている。</p> <p>(2) 専門的な指導を受ける機会があればそれを生かし、スケートの技能を向上させたいと思っている。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 教育活動の一環として、充実した活動ができるようにする。</p> <p>(2) 部活動に参加する生徒は、保護者の承諾書を担任を通して顧問に提出し、校長の許可を受ける。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 特設部であるため、常設部の練習とのバランス等を考慮し、生徒の負担過重とならないように配慮する。</p> <p>(2) 限られた活動時間内で効果的な練習ができるよう、練習内容を工夫する。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 部活動の実施は原則として平日及び土曜日とし、日曜日を休業日にあてる。長期休業中における部活動は、生徒の健康管理・学習等を考慮して顧問が決定し、学校長に届け出て実施する。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 活動の場所の安全確認、用具の使用前点検、使用後の後始末をきちんと行う。</p> <p>(2) 会議等で顧問教師が部活動指導にあたるできない場合は、活動を中止する。その他打合せ等で顧問教師がつかない場合は、代理の教師が指導にあたる。</p> <p>(3) 複数の教師を顧問にあて、指導方針等の共通理解を図り部活動指導にあたる。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) スピードスケートに必要な基礎的体力の向上</p> <p>(2) スピードスケートの基礎的技術の習得と向上</p> <p>(3) 氷上での滑走技術(スタート、コーナリング、中間滑走、フィニッシュ等)の向上</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) スケート靴等の用具の準備やメンテナンス、大会情報の提供など、部員生徒への情報提供や相談等を随時行う。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度はじめに部活動保護者会を行い、顧問から活動目標について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 陸上練習</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本の姿勢や動作の確認と基礎的体力の向上について外部指導者との連携を図り指導を進める。 <p>(2) 氷上練習</p> <ul style="list-style-type: none"> 滑走技術について、外部指導者からの専門的な指導を受けながら指導を進める。 			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 活動計画、練習方法について、年度はじめに顧問教師と外部指導者の打合せを行う。</p> <p>(2) シーズン中の練習では、その都度外部指導者との連携を図り詳細な練習計画を立てて指導にあたる。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式 部活動紹介 新入生入部	家庭訪問 中間テスト	期末テスト	土曜授業参観 親子観音球技大会 1学期終業式	2学期始業式	2年生職場体験	中間テスト 文化祭	期末テスト 定期教育相談	2学期終業式	3学期始業式	2年生立志式 学年末テスト	卒業式 修了式
各種大会の予定		中体連陸上大会	中体連総合大会	県中体連総合大会		中体連駅伝大会 中体連新人大会			中体連スケート大会(県・東北)	全国中学校スケート大会		
練習試合・遠征等				陸上練習	陸上練習	陸上練習	陸上練習	スケート氷上練習	スケート氷上練習	スケートクラブ合同練習	連盟主催大会・記録会	
シーズン区分)	準備期	準備期	準備期	準備期	準備期	準備期	充実期	充実期	試合期	試合期	試合期	準備期
活動内容・ねらい				○陸上練習 ・基礎的体力向上 ・基本動作の確認と習得 (含インラインスケート) ○インラインスケートを使用し氷上練習につなぐ。	○陸上練習 ・基礎的体力向上 ・基本動作の確認と習得 (含インラインスケート) ○インラインスケートを使用し氷上練習につなぐ。	○陸上練習 ・基礎的体力向上 ・基本動作の確認と習得 (含インラインスケート)	○陸上練習 ・基礎的体力向上 ・基本動作の確認と習得 (含インラインスケート)	○氷上練習 ・スケート滑走技術の確認と習得 向上を図る。	○大会出場、上位大会に向けての氷上練習。 ・上位大会参加に向けた課題の克服。	○町スケートクラブとの合同練習。 ・スケートの技術の向上	○町スケートクラブとの合同練習。 ○連盟主催大会、記録会への参加。 ・大会等への参加を通して記録の向上を図る。	

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	伊達市立桃陵中学校・剣道部	顧問・外部指導者氏名	顧問：野村栄二 外部指導者：荒井信人	電話/FAX	Tel 024-576-6353 Fax 024-576-6354	Email	school@toryo-jks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 生徒一人ひとりの自主性・社会性を育てる。</p> <p>(2) 生徒各自の能力・特性を十分に発揮させるとともに、個性の伸長を図る。</p> <p>(3) 楽しく規則正しい学校を築くための望ましい人間関係を育てる。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 剣の理法の修練を通して、自分の肉体と精神を練磨することにより、健全な青年へと成長するような人間形成を目標とする。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 中体連県大会の出場を目標として、各種大会で上位入賞を目指して各自が技能の向上に努めている。</p> <p>(2) 昇段審査会に合格して、有段者の資格を取得したいと考えている生徒がほとんどである。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 部活動は、全生徒の参加を原則とする。ただし、病弱で活動できないとか特殊な習い事で参加できない場合は、この限りでない。</p> <p>(2) 生徒の実態を把握し、全教師の協力により個々の生徒の能力を十分に生かせるように指導の方法を工夫する。</p> <p>(3) 教師の指導・助言をもとに、生徒が自主的に活動し、運営できるようにさせる。</p> <p>(4) 生徒の主体性を重視し、活動の成果を発表しあい、活動の在り方と意義を理解させる。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 剣道を正しく真剣に学び、心身を練磨して旺盛なる気力を養う。</p> <p>(2) 剣道の特性を通じて礼節を尊び、信義を重んじ誠を尽して常に自己の修養に努める。</p> <p>(3) 国家社会を愛して広く人類の平和繁栄に寄与せんとするものである。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。</p> <p>(2) 毎週月曜日は、地区のスポーツ少年団への参加のため、部活動との重なりを解消するため、部活動を休みにしている。</p> <p>(3) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休業を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 生徒の事故防止に関する意識の高揚に努めるとともに、定期的に道具の点検に努める。</p> <p>(2) 不慮の事故に対しては、応急処置の方法を明確にして対処できるよう配慮する。また、連絡体制の整備をしっかりと構築しておく。</p> <p>(3) 保護者会等と連携を図りながら、相談と適切な解決策を講じることのできる支援態勢を整える。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 剣道の正しい伝承と発展のために、剣の理法に基づく竹刀の扱い方の指導に努める。</p> <p>(2) 相手の人格を尊重し、心豊かな人間の育成のために礼法を重んずる指導に努める。</p> <p>(3) ともに剣道を学び、安全・健康に留意しつつ、生涯にわたる人間形成の道を見出す指導に努める。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 顧問から部活動保護者会長へ連絡を取りながら、保護者会員に対して部活動連絡網の活用や、大会引当選手輸送の配車協力の際に説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 限られた時間内で集中して気剣体の一致を目指した正しい打突を実践できるよう、個々の能力に応じて基本に忠実に練習を行わせる。</p> <p>(2) 部長を中心として部員一丸となり、主体的な練習を行えるような人間関係の醸成に努めさせる。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 高段者である外部指導者から、科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
学校行事や定期考査等の予定	入学式・1学期始業式 部活動紹介 部活動編制	中間テスト	中体連支部大会 中体連県北大会 期末テスト	1学期終業式 中体連大会	2学期始業式	支部中体連新人戦 大会	文化祭	期末テスト	2学期終業式	3学期始業式	学年末テスト	卒業式・修了式	
各種大会の予定			伊達支部大会 県北地区大会	県大会		支部新人大会	地区新人大会	県新人大会 昇段審査会					
練習試合・遠征等	不定期に実施される各種大会・練成会の参加	不定期に実施される各種大会・練成会の参加	不定期に実施される各種大会・練成会の参加	不定期に実施される各種大会・練成会の参加	夏季休業、不定期実施の各種大会・練成会の参加	不定期に実施される各種大会・練成会の参加	不定期に実施される各種大会・練成会の参加	不定期に実施される各種大会・練成会の参加	不定期に実施される各種大会・練成会の参加	不定期に実施される各種大会・練成会の参加	不定期に実施される各種大会・練成会の参加	不定期に実施される各種大会・練成会の参加	
シーズン区分)	準備期 1年生入部	充実期	試合期	試合期 3年生引退	準備期 新体制確立	充実期	試合期	試合期	充実期	準備期	準備期	準備期	
活動内容・ねらい	・大会・練成会に参加して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自が高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会・練成会に参加して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自が高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会・練成会に参加して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自が高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会・練成会に参加して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自が高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会・練成会に参加して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自が高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会・練成会に参加して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自が高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会・練成会に参加して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自が高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会・練成会に参加して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自が高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・昇段審査会に向けた日本剣道型の練習 ・各自が高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・冬季間における短時間で効果的な練習の実践 ・基礎体力づくり ・各自が高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・冬季間における短時間で効果的な練習の実践 ・基礎体力づくり ・各自が高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・冬季間における短時間で効果的な練習の実践 ・基礎体力づくり ・各自が高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・冬季間における短時間で効果的な練習の実践 ・基礎体力づくり ・各自が高めたい技能の習得に向けたトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県二本松市立二本松第一中学校・柔道部	顧問・外部指導者氏名	黒澤夕美・安齋 充	電話/FAX	0243-23-0870 / 0243-22-8977	E-mail	nihonmatsu1.jhs@city.nihonmatsu.lg.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動を通して、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員の実態を十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。		各部の活動目標 (1) 柔道の練習や試合を通して、技能と体力の向上を図る。 (2) 他者を尊重する精神や、目標に向かって前向きに取り組む姿勢を養う。			部員のニーズや要望・意見 (1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。 (2) 定期審査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。また、通塾のため部活動の早退を希望する部員もいる。		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。		各部の指導方針 (1) 年間に開催される各種大会の日程を考慮し、それに合わせた活動計画を作成し、見直しを持った活動を行う。 (2) 新入部員に関しては、新人戦に参加できるよう基本技能を習得させる。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 (1) 少人数での活動となるので、週末にはできるだけ合同練習を実施し、技能の向上を図る。 (2) 足腰の筋力と全身持久力を向上させるための基礎トレーニングを平日の活動に取り入れる。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。 (2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) 外部コーチとの連絡を密にし、生徒の実態を踏まえた指導を行う。 (2) 上級生と新入生の技能習得状況の相異を考慮し、それぞれに必要な練習を行わせる。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づいた練習内容や練習方法等の情報を入手する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 審査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部	中間テスト	期末テスト	終業式		中間テスト	文化祭 体育大会	三者面談 期末審査	終業式	3年期末テスト	1・2年期末テスト	卒業式・修了式
各種大会の予定		協会主催大会	地区大会	県大会	東北大会	地区新人戦大会		県新人大会	協会主催大会		地区リーグ戦	地区リーグ戦
練習試合・遠征等	週末に隔週で1日 練習試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定		大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	週末に隔週で1日 練習試合を設定	週末に隔週で1日 練習試合を設定	卒業生壮行試合
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	準備期	充実期	試合期	試合期	充実期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング	・大会をとおして次の段階へ向けたチームの技術力・精神力の更なる向上へ向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・敏捷性、瞬発力・持久力の向上を目指したトレーニング	・敏捷性、瞬発力・持久力の向上を目指したトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング	・敏捷性、瞬発力・持久力の向上を目指したトレーニング	・敏捷性、瞬発力・持久力の向上を目指したトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	郡山市立明健中学校・女子ソフトボール部	顧問・外部指導者氏名	顧問：佐藤寛晃、渡邊夏樹 外部指導者：伊藤元治	電話/FAX	024-935-1071/1072	Email	meiken-t@edu.city.koriyama.fuk ushima.jp
学校全体に関わって		女子ソフトボール部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 前活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。		女子ソフトボール部の活動目標 (1) ソフトボールをおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。			部員のニーズや要望・意見 (1) 毎年入部する新入生が少いため、大会で好成績を上げることで、ソフトボの魅力や伝えたいと考えている。 (2) 2名の顧問ともソフトボールの経験がないため、専門的な指導を望んでいる。		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。		女子ソフトボール部の指導方針 (1) 活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 外部指導者の専門的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		女子ソフトボール部の指導内容 (1) 走力、筋力等の基礎的な体力向上 (2) 打つ、投げる、捕る等の基本的な動作の指導 (3) 基本的なルールの理解 (4) チームプレー			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。 (2) 顧問と外部指導者との連携を密にし、外部指導者に対して気軽に相談できる体制をつくる。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。		女子ソフトボール部の指導方法 (1) ランニング及び雨天時の筋力トレーニング (2) キャッチボール (3) トスパッティング (4) シートノック			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部		定期考査①	終業式	始業式		定期テスト② 文化祭	定期テスト③	終業式	始業式	定期テスト④	卒業式・修了式
各種大会の予定		協会主催大会	地区大会	県大会		地区新人大会	県新人大会 (協会主催)					
練習試合・遠征等	週末に隔週で1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定			大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	週末に隔週で1日練習試合を設定	週末に隔週で1日練習試合を設定			卒業生壮行試合
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	準備期	充実期	試合期	試合期	準備期	準備期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・新入部員に対する基本的なスキルの定着。 ・練習試合を通じたチームの課題の明確化	・大会に向けたチームプレーの充実 ・基礎的な体力の向上	・大会をおとして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をおとして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・大会をおとして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をおとして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	熱海中・スピードスケート部	顧問・外部指導者氏名	鈴木智恵、吾妻義尚	電話/FAX	024-984-3167	Email	atami.t@edu.city.koriyama.fukushima.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動を通して、心身共に健康で粘り強い生徒を育成する。 (2) 上級生・下級生が、同じ目標に向けて共に努力する中から熱海中学校の生徒としての連帯感と協働性を養う。		各部の活動目標 (1) スピードスケートの普及を図るため、低学年から合同で活動を行う。 (2) 上位大会への進出を目指し、自己記録を伸ばす。 (3) 互いに競い合い、高いレベルで活動する。			部員のニーズや要望・意見 ○部員の多くが小学校の時から、スピードスケートクラブで練習に取り組んでいる。中学生3年生は、夏以降に高校生と一緒に練習し、団体に向け練習に取り組む。		
学校全体の指導方針 (1) 生徒だけの活動は避け、顧問教師の適切な指導のもとに実施する。 (2) 指導内容を精選し、生徒たちが主体的に活動できるよう工夫すること。 (3) 後始末と用具施設の整理整頓、清掃などを徹底すること。 (4) 完全下校時刻を徹底する。		各部の指導方針 (1) あいさつ、礼儀、マナーをしっかりとできる生徒を育てる。 (2) 生涯にわたって、スピードスケートを続ける生徒を育てる。 (3) 日常生活で意欲的な態度を育てる。			部員の心身の疲労回復への配慮 ○けがや病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 事故防止には、細心の注意を払い指導にあたり、特に、休日の事故防止に努める。 (2) 練習場所の即山スケート場までの移動の際の交通事故防止についての指導を徹底する。 (3) AEDや救急救命法の研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。		各部の指導内容 (1) スケーティング技術の基本トレーニング (2) コーナワークの技術トレーニング (3) 筋持久力と柔軟性の強化			部員とのコミュニケーションの方策 ○顧問が意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) PTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 練習計画を節目に発行し、活動内容について保護者に情報を提供し、理解を得る。		各部の指導方法 (1) 県スケート連盟の指導方針にそった活動を行う。 (2) 複数の指導者でポイントを押さえた指導を行う。			指導スタッフ間の連携策 ○外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 部活動結成		定期テスト	終業式	始業式		文化祭	定期テスト	終業式	始業式 定期テスト3年	定期テスト 1, 2年	卒業式 修了式
各種大会の予定									中体連：県大会 中体連：東北大会	中体連：全国大会	市民体育祭	選手権大会
練習試合・遠征等			県外遠征	県外遠征 合同練習：高校	合同練習：高校	合同練習：高校	県外遠征 合同練習：高校					
シーズン区分)	準備期	準備期	準備期	準備期	準備期	準備期	準備期	充実期 屋内練習	試合期 屋外練習	試合期 屋外練習	試合期 屋外練習	試合期 屋外練習
活動内容・ねらい			基礎体力向上 筋力強化トレーニング	基礎体力向上 筋力強化トレーニング	滑りトレーニング	筋力・持久力トレーニング	Saqトレーニング ・スピード ・敏捷性 ・瞬発力		大会を想定したトレーニング			

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	熱海中・アイスホッケー部	顧問・外部指導者氏名	近藤桂章、大内康裕	電話/FAX	024-984-3167	Email	atami-t@edu.city.koriyama.fukushima.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通して、心身共に健康で粘り強い生徒を育成する。</p> <p>(2) 上級生・下級生が、同じ目標に向けて共に努力する中から熱海中学校の生徒としての連帯感と協働性を養う。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1)活動を通して、心身を鍛え、社会性を身につける。</p> <p>(2)全国大会での1勝を目標に、一人一人が高い意識で活動する。</p> <p>(3)チームの一員としての自覚を持たせる。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>○小学生の時から継続して、競技に取り組んでおり、各選手とも全国大会レベルの経験をしている。アイスホッケー部に入部するために、学区外通学生がいる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 生徒だけの活動は避け、顧問教師の適切な指導のもとに実施する。</p> <p>(2) 指導内容を精選し、生徒たちが主体的に活動できるよう工夫すること。</p> <p>(3) 後始末と用具施設の整理整頓、清掃などを徹底すること。</p> <p>(4) 完全下校時刻を徹底する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1)あいさつ、礼儀、マナーをしっかりとできる生徒を育てる。</p> <p>(2)生涯にわたって、アイスホッケーを続ける生徒を育てる。</p> <p>(3)日常生活で意欲的な態度を育てる。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>○けがや病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 事故防止には、細心の注意を払い指導にあたり、特に、休日の事故防止に努める。</p> <p>(2) 練習場所の郡山スケート場までの移動の際の交通事故防止についての指導を徹底する。</p> <p>(3) AEDや救急救命法の研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1)基本スケータリング、スティックハンドリングを身につけさせる。</p> <p>(2)体幹トレーニングを通して、健康な体をつくる。</p> <p>(3)戦術練習を通して、視野を広げられるようにする。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>○顧問が意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) PTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 練習計画を節目に発行し、活動内容について保護者に情報を提供し、理解を得る。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1)時間や決まりをしっかりと守り、活動することができるように指導する。</p> <p>(2)スケートリンク以外の練習として、ランニング・体幹トレーニングを実施する。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>○外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 部活動結成		定期テスト	終業式	始業式		文化祭	定期テスト	終業式	始業式 定期テスト3年	定期テスト 1, 2年	卒業式 修了式
各種大会の予定						中体連 新人戦		県総体参加	中体連：東北	中体連：全国 東日本ゾニエ		全日本少年
練習試合・遠征等								新潟合宿(1)	新潟合宿(2)			
シーズン区分)	準備期 各部活動	準備期 各部活動	準備期 各部活動	準備期 各部活動	準備期 陸上練習	準備期 陸上練習	準備期 陸上練習	充実期・試合期 氷上練習	試合期 氷上練習	試合期 氷上練習	試合期 氷上練習	試合期 氷上練習
活動内容・ねらい					スタミナ・筋力 スピード 体幹作り	スタミナ・筋力 スピード 体幹作り	スタミナ・筋力 スピード 体幹作り	氷上基本練習 体幹作り	戦術練習 練習試合	戦術練習 練習試合	戦術練習 練習試合	戦術練習 練習試合

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	郡山市立守山中学校・柔道部	顧問・外部指導者氏名	顧問 五十嵐正広、外部指導者 柳沼 由衛・多田 義人	電話/FAX	024-955-3108 024-955-3132	Email	Moriyama-t@edu.city.koriyama.fukushi ma.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通して心身の健全な発達を図り、技能や体力の向上に努める。</p> <p>(2) 上級生・下級生の学年を越えた幅広い交友関係の中で、豊かな人間性を形成する。</p> <p>(3) 集団の一員としての役割を理解させ、公正・協力・責任等の態度を養い、自己の能力に応じた目標の達成を目指し、厳しく自らを律して根気強く努力する態度や気力を育てる。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 「礼に始まり礼に終わる」柔道という武道の特性を理解し、礼儀や相手を尊重する態度を養う。</p> <p>(2) 集団の一員として、望ましい人間関係を育成する。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 各種大会で上位に入りたい、県大会や東北大会に進める力や技を身につけたいと考えている。</p> <p>(2) 部活動だけでなく、学力の向上も考えており、週に2回は部活動終了後に塾に通う生徒が居る。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員との良好な信頼関係を築き、発達段階に応じた心身共にバランスの取れた成長を促すための指導を行う。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 各種大会に参加する機会を多く持つことにより、各自が目標を持って毎日の練習に取り組む。</p> <p>(2) 勝つための技術の習得だけでなく、お互いに尊重しあい、互いに高めあえる人間関係の育成をはかる。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 中体連の直前は難しいが、週末の休日の1日は休業日にする。休日に連続して大会がある場合はその翌日を休業日とする。</p> <p>(2) ケガや体調不良を訴える生徒は練習に参加させない。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 練習場所の定期的な点検を行い、ケガの防止につとめる。</p> <p>(2) 顧問が練習場所に居ないときには、打ち込みや乱取りは行わず、筋トレ程度を行いケガの防止につとめる。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 基礎練習を中心に、筋肉トレーニングや打ち込み投げ込み、乱取りを行う。</p> <p>(2) 相手が居るから試合ができることを理解させ、感謝の気持ちをもって試合・練習に取り組むよう指導する。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習の前後で部員と話をし、練習上の悩みだけではなく生活面での悩みや不安を解決するように支援する。</p> <p>(2) 試合や練習の後は、試合の振り返りを行い指導を行う。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度初めに部活動保護者会を開き、顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度中や年度終わりにも顧問や保護者からの要望により、保護者会を開き活動状況や活動結果について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 毎日の練習に顧問教師が付きケガの防止に努めるとともに、望ましい人間関係が築けるように見ていく。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問と打合せを行い、柔道の内容だけではなく学校生活などの情報を提供する。</p> <p>(2) 外部指導者から、適切な練習内容や練習方法などの情報を得て、毎日の練習に反映させる。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 部活動編成	授業参観①	定期テストI	授業参観② 1学期終業式	2学期始業式 夏休み成果テスト	1日総合学習 定期テストII	校内球技大会 校内文化祭	教育相談 定期テストIII	授業参観③ 2学期終業式	3学期始業式	定期テストIV	卒業式、終了式 離任式
各種大会の予定		県中県南中学校柔道大会	市中体連 県中地区中体連	中体連県大会	中体連東北大会	市中体連新人戦	県中地区中体連新人戦	中体連新人戦県大会	柔道錬成大会		石川柔道大会	県柔道強化大会
練習試合・遠征等	週末に不定期で練習試合に参加	週末不定期で練習試合に参加			自衛隊合宿	週末に不定期で練習試合に参加		週末に不定期で練習試合に参加	週末に不定期で練習試合に参加	週末に不定期で練習試合に参加	週末に不定期で練習試合に参加	週末に不定期で練習試合に参加
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	充実期	試合期	充実期	充実期	準備期	準備期	充実期	準備期
活動内容・ねらい	・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習	・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習	・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習	・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習	・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習		・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習	・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習	・筋力、持久力の向上を目指したトレーニング	・筋力、持久力の向上を目指したトレーニング ・敏捷力、瞬発力の向上を目指したトレーニング	・筋力、持久力の向上を目指したトレーニング ・敏捷力、瞬発力の向上を目指したトレーニング	・筋力、持久力の向上を目指したトレーニング ・敏捷力、瞬発力の向上を目指したトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	郡山市立守山中学校・柔道部	顧問・外部指導者氏名	顧問 五十嵐正広、外部指導者 柳沼 由術・多田 義人	電話/FAX	024-955-3108 024-955-3132	Email	Moriyama-t@edu.city.koriyama.fukushima.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通して心身の健全な発達を図り、技能や体力の向上に努める。</p> <p>(2) 上級生・下級生の学年を越えた幅広い交友関係の中で、豊かな人間性を形成する。</p> <p>(3) 集団の一員としての役割を理解させ、公正・協力・責任等の態度を養い、自己の能力に応じた目標の達成を目指し、厳しく自らを律して根気強く努力する態度や気力を育てる。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 「礼に始まり礼に終わる」柔道という武道の特性を理解し、礼儀や相手を尊重する態度を養う。</p> <p>(2) 集団の一員として、望ましい人間関係を育成する。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 各種大会で上位に入りたい、県大会や東北大会に進める力や技を身につけたいと考えている。</p> <p>(2) 部活動だけでなく、学力の向上も考えており、週に2回は部活動終了後に塾に通う生徒が居る。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員との良好な信頼関係を築き、発達段階に応じた心身共にバランスの取れた成長を促すための指導を行う。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 各種大会に参加する機会を多く持つことにより、各自が目標を持って毎日の練習に取り組む。</p> <p>(2) 勝つための技術の習得だけでなく、お互いに尊重しあい、互いに高めあえる人間関係の育成をはかる。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 中体連の直前は難しいが、週末の休日の1日は休業日にする。週休日に連続して大会がある場合はその翌日を休業日とする。</p> <p>(2) ケガや体調不良を訴える生徒は練習に参加させない。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 練習場所の定期的な点検を行い、ケガの防止につとめる。</p> <p>(2) 顧問が練習場所に居ないときには、打ち込みや乱取りは行わず、筋トレ程度を行いケガの防止につとめる。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 基礎練習を中心に、筋肉トレーニングや打ち込み投げ込み、乱取りを行う。</p> <p>(2) 相手が居るから試合ができることを理解させ、感謝の気持ちをもって試合・練習に取り組むよう指導する。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習の前で部員と話し、練習上の悩みだけではなく生活面での悩みや不安を解決するように支援する。</p> <p>(2) 試合や練習の後は、試合の振り返りを行い指導を行う。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度初めに部活動保護者会を開き、顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度中や年度終わりにも顧問や保護者からの要望により、保護者会を開き活動状況や活動結果について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 毎日の練習に顧問教師が付きケガの防止に努めるとともに、望ましい人間関係が築けるように見ていく。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問と打合せを行い、柔道の内容だけでなく学校生活などの情報を提供する。</p> <p>(2) 外部指導者から、適切な練習内容や練習方法などの情報を得て、毎日の練習に反映させる。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 部活動編成	授業参観①	定期テストⅠ	授業参観② 1学期終業式	2学期始業式 夏休み成果テスト	1日総合学習 定期テストⅡ	校内球技大会 校内文化祭	教育相談 定期テストⅢ	授業参観③ 2学期終業式	3学期始業式	定期テストⅣ	卒業式、終了式 離任式
各種大会の予定		県中県南中学校柔道大会	市中体連 県中地区中体連	中体連県大会	中体連東北大会	市中体連新人戦	県中地区中体連新人戦	中体連新人戦県大会	柔道錬成大会		石川柔道大会	県柔道強化大会
練習試合・遠征等	週末に不定期で練習試合に参加	週末不定期で練習試合に参加			自衛隊合宿	週末に不定期で練習試合に参加		週末に不定期で練習試合に参加	週末に不定期で練習試合に参加	週末に不定期で練習試合に参加	週末に不定期で練習試合に参加	週末に不定期で練習試合に参加
シーズン(区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	充実期	試合期	充実期	充実期	準備期	準備期	充実期	準備期
活動内容・ねらい	・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習	・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習	・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習	・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習	・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習		・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習	・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習	・筋力、持久力の向上を目指したトレーニング	・筋力、持久力の向上を目指したトレーニング ・敏捷力、瞬発力の向上を目指したトレーニング	・筋力、持久力の向上を目指したトレーニング ・敏捷力、瞬発力の向上を目指したトレーニング	・筋力、持久力の向上を目指したトレーニング ・敏捷力、瞬発力の向上を目指したトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県天栄村立天栄中学校	顧問・外部指導者氏名	顧問：花安剛紀・楠本高尚 外部指導者：明石邦宏	電話/FAX	電話：0248-83-2222 FAX：0248-83-2229	Email	school@tenei-j.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 豊かな人間性と創造力を持ち、主体的に実践できる生徒の育成を図る。		各部の活動目標 (1) 一人一人技術の向上の努め、上位大会出場を目指す。			部員のニーズや要望・意見 (1) 技術の向上、および上位大会への出場を希望している。		
学校全体の指導方針 (1) 各種大会へ積極的に参加し、心身の向上を図る。		各部の指導方針 (1) 集団の一員として、自分の役割を果たし、社会性を身につけさせる。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 週に一度の休養日を設け、生徒の負担加重にならないように配慮している。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 場に着く指導に心がけ、顧問が十分な連携を取りながら指導に当たる。		各部の指導内容 (1) 外部指導者との連携のもと、練習メニューを構築し、日々の練習に励んでいる。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 大会出場メンバー等については、部長や部員と話し合いを行いながら決定している。		
保護者等への説明機会 (1) 年2回保護者会を開き、活動について話し合う。外部指導者にも参加していただき、保護者へ活同等について説明をしていただく。		各部の指導方法 (1) 外部指導者と連携を取りながら、生徒が自主的に練習に取り組んでいけるように指導している。			指導スタッフ間の連携策 (1) ミーティング多く設け、連携を満にして取り組んでいる。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	新入生歓迎会 部活動紹介 新優勢介入部		期末テスト	終業式			中間テスト 文化祭	期末テスト	終業式		期末テスト	卒業式・修了式
各種大会の予定	協会大会	協会大会	協会大会 中体連	協会大会	協会大会	協会大会 中体連		協会大会	協会大会	協会大会		協会大会
練習試合・遠征等												
シーズン区分)	基本	試合期	試合期	基本	基本	試合期	基本	基本	基本	基本	基本	基本
活動内容・ねらい	試合の基本を身につけさせる	試合の仕方を学ぶ	試合の仕方を学ぶ	新チーム作りをする 基本を身につけさせる	基本を身につけさせる	試合の仕方を学ぶ	基本練習を行う	基本練習を行う	基本練習を行う 体力作りをする	基本練習を行う 体力作りをする	基本練習を行う 体力作りをする	基本練習を行う 体力作りをする

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県石川町立石川中学校・柔道部	顧問・外部指導者氏名	外部指導者 佐藤 祐介	電話/FAX	0247-26-2315	E-mail	school@ishikawaj.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 目指す学校像の3つの中の1つとして、「歓声のある部活動」を掲げている。部活動を通して、体力・技能の向上はもとより、協同の精神・感動する心、社会性の育成など、豊かな人間性を養う。 (2) 目標を設定し、ミーティングを通して練習方法を工夫させ、生徒の自主的な態度を育てる。		各部の活動目標 (1) 伝統文化を尊重する心を育て、武道の礼儀を重んじ、日々練習を怠らず、個人、団体ともに中体連大会で全国大会出場を目指す。			部員のニーズや要望・意見 (1) 部員の多くは、強いチームを目指し努力できているが、保護者の協力がなかなか得られず、送迎ができないために遠征等の参加を辞退せざるを得ないときがある。		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、見通しをもって自主的に活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。		各部の指導方針 (1) 生涯にわたって柔道を続けられるようなけがをしない体をつくる。 (2) 先輩は後輩に対し、礼儀や柔道の基礎を優しく教え、後輩は先輩に感謝の気持ちを礼儀で返し、チームの応援を積極的に行えるような良き先輩後輩の関係を築く。 (3) 各自の大会での目標を達成させる。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 日曜日を基本的に休養日とし、土日に部活動を実施する際には、次の日の月曜日を休養日としている。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 練習前後の生徒の心身の状態を把握し、けがの防止に努める。また、用具等の点検を定期的に実施する。 (2) 熱中症対策、AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 「部活動指導のガイドライン」の研修を深め、体罰やいせつ・セクハラの防止に努める。また、相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 (1) 受け身、回転運動、柔軟トレーニング、筋肉トレーニング等を行い、柔軟だけがしない体をつくる。 (2) 寝技の打ち込みと乱取りを行い、寝技の基礎と実践的技術を身につける。 (3) 立ち技の打ち込みと乱取りを行い、立ち技の基礎と実践的技術を身につける。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 生徒のようすをよく観察し、ようすがおかしいときはすぐに声をかけ、相談できる体制をとっている。		
保護者等への説明機会 部活動保護者会において、顧問から活動目標等について説明する機会を設定し、部活動への保護者の理解と協力を得る。		各部の指導方法 (1) 各練習について、外部指導者から専門的な指導を受け、練習のポイントを説明し取り組ませる。 (2) 熱中症に配慮して、各練習ごとに、5分程度の水分補給の時間をとっている。 (3) 生徒達の動きをみて、正しい動きになっていないときには、その都度、指導助言を行う。			指導スタッフ間の連携策 (1) 昨年に引き続きなので外部指導者とは連携が図りやすく、指導日に常に打ち合わせを行い、学校生活における状況について情報提供を行い、同一歩調で指導にあたっている。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づいた練習内容や練習方法等の情報を入手している。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部		期末考査	終業式			中間考査	学校祭 期末考査	終業式		期末考査	卒業式・修了式
各種大会の予定		協会主催大会	地区大会	県大会	東北大会 全国大会	地区新人戦		県新人大会	協会主催大会 東北錬成大会	県強化合宿	地区リーグ戦	地区リーグ戦 東北錬成大会
練習試合・遠征等	週末に隔週で1日 練習試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	夏季遠征 2泊3日	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	週末に隔週で1日 練習試合を設定	週末に隔週で1日 練習試合を設定	卒業生壮行試合
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	準備期	充実期	試合期	試合期	充実期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・新一年生は、けがをしない体づくり ・2・3年生は、基礎的な技の確認と、実践的な連続技等の練習	・新一年生は、けがをしない体づくり ・2・3年生は、基礎的な技の確認と、実践的な連続技等の練習	・新一年生は、基本的な技の打ち込み ・実践的な連続技等の練習 ・試合形式の実践的な練習	・新一年生は、基本的な技の打ち込みと乱取り ・実践的な連続技等の練習 ・試合形式の実践的な練習	・新一年生は、基本的な技の打ち込みと乱取り ・実践的な連続技等の練習 ・試合形式の実践的な練習	・新一年生は、基本的な技の打ち込みと乱取り ・実践的な連続技等の練習 ・試合形式の実践的な練習	・新一年生は、基本的な技の打ち込みと乱取り ・実践的な連続技等の練習 ・試合形式の実践的な練習	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めた技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めた技能の習得に向けたトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・各自で高めた技能の習得に向けたトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・年間の反省と来年度の目標設定

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	古殿町立古殿中学校・柔道部	顧問・外部指導者氏名	蛭田 智之・鈴木 博敏	電話/FAX	0247-53-3135 / 0247-53-3136	Email	school@furudonoj.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 生徒の自発的な参加により、共通の活動の中に、相互理解・相互協力を確立し、集団の目標達成に貢献しながら、個人の目標の達成に努める。</p> <p>(2) 部活動を通して、体力の向上、技術・技能の習熟を図るとともに、より良い人間関係、よい思い出をつくる。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 部員同士や指導者との望ましい人間関係を構築し、休まず自発的に活動し、体力の向上に努める。</p> <p>(2) より高い技能の習得を目指すとともに、部活動を通して、人間としての成長を促す。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 試合で勝ちたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。</p> <p>(2) 進路にむけて、学習時間を確保したいと考えて、土日は通塾している生徒もいる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも自主的・自発的に活動が進められるように組織化に努め、目標や計画を明確に示し、部員全員が一丸となって活動に取り組めるようにする。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 怪我や事故のないように、指導内容や方法を検討・改善し、毎日の指導を行う。</p> <p>(2) 勝つことだけにこだわらず、運動の基礎・基本の習得、体力の向上、仲間との連帯感を育成する。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休業を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設設備・用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDの使い方や救命救急法についての研修を実施し、緊急時の対応への備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 礼儀を大切にし、活動時間を充実したものにする。</p> <p>(2) 柔道の受け身や投げ技等の習得をする。</p> <p>(3) 中学校卒業後の活動に生かせる体力を育成する。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記録した用紙を指導者が目を通し、指導・支援の改善に活かす。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から活動の運営状況や活動実績、成果や課題等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 顧問と部長の連携を密にし、毎日練習メニューを確認し、練習を行う。</p> <p>(2) 怪我や事故防止のため、お互いの体力や特性、健康状況を確認しながら、練習を行う。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から技術・技能の向上を目指した練習内容や方法等の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部		期末テスト	終業式	始業式 成果テスト		学校祭 中間テスト	期末テスト	終業式	始業式 成果テスト	期末テスト	卒業式・修了式
各種大会の予定	協会主催大会		地区大会	県大会		支部新人大会	地区新人大会	県新人大会	協会主催大会			協会主催大会
練習試合・遠征等		大会期間を除き 週末に隔週で1日 合同練習を設定	大会期間を除き 週末に隔週で1日 合同練習を設定	大会期間を除き 週末に隔週で1日 合同練習を設定		大会期間を除き 週末に隔週で1日 合同練習を設定	大会期間を除き 週末に隔週で1日 合同練習を設定	大会期間を除き 週末に隔週で1日 合同練習を設定			大会期間を除き 週末に隔週で1日 合同練習を設定	
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	準備期	充実期	試合期	試合期	充実期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい			・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向けた トレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向けた トレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・筋力、全身持久 力の向上を目指した トレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向けた トレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向けた トレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向けた トレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・筋力、全身持久 力の向上を目指した トレーニング	・筋力、全身持久 力の向上を目指した トレーニング	・筋力、全身持久 力の向上を目指した トレーニング	・筋力、全身持久 力の向上を目指した トレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	田村市立常葉中学校・卓球部	顧問・外部指導者氏名	佐久間文彦・浦山正一	電話/FAX	0247-77-2330・2331	Email	school@tokiwa-j.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 自分たちの力で学校生活を豊かに明るく楽しくする自主的な態度を養う。 (2) 教師と生徒、生徒同士の豊かな人間関係を育む。 (3) 自分の興味や特技を伸ばし、余暇を有意義に活動する態度を養う。 (4) 指導者や保護者に対する感謝を忘れず、ルールやマナーを守り、社会性を育てる。		各部の活動目標 (1) 中体連及び新人戦における団体戦・個人戦優勝、県中大会・県大会へ出場する。 (2) 各種大会で上位入賞を目指す。			部員のニーズや要望・意見 (1) 部員全員が顧問や外部指導者からの助言や指導に一生懸命取り組んでいる。		
学校全体の指導方針 (1) 全生徒が部活動に参加し、放課後や休業日等を活動時間にあてる。 (2) 教師と生徒、生徒同士の豊かな人間関係を育む。 (3) 自分の興味や特技を伸ばし、余暇を有意義に活動する態度を養う。 (4) 指導者や保護者に対する感謝を忘れず、ルールやマナーを守り、社会性を育てる。		各部の指導方針 (1) 競技をする上で必要な基礎的な体力の向上及び技術の向上を図る。 (2) 感謝の気持ちを忘れず、何事にも諦めず一生懸命取り組む生徒を育成する。 (3) ルールやマナー等、規範意識や社会性を確立する。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 気候や行事等による疲れへのリフレッシュ法を指導する。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 指導者及び管理職が定期的に指導方針や指導内容を確認する。 (2) 生徒から定期的にアンケートを実施する。		各部の指導内容 (1) 日々の練習内容に目的や課題を意識して取り組ませる。 (2) 練習及び各種大会で指導者へ元気や爽やかなあいさつをさせる。また、感謝の心を持って練習や大会等に臨ませる。 (3) 各種大会や練習試合での試合内容や取り組み等を振り返らせ、意欲を向上させる。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 個に応じた適切な細かい技術指導を行う。 (2) 日々の体調管理やケガの有無を確認する。		
保護者等への説明機会 (1) 保護者会で外部コーチの活用について説明する。		各部の指導方法 (1) フォームや打ち方など基本的な技術を習得する。 (2) 試合を想定した多球練習やコースを限定した練習に取り組む。 (3) 指導者による技術向上へのアドバイスや練習内容への取り組み方を指導する。			指導スタッフ間の連携策 (1) 指導に関して食い違いがないように、常に方針や技術指導の意思疎通を図る。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	始業式・入学式 修学旅行(3年) 全国学力調査	支部陸上大会 生徒会総会 学習旅行(1・2年)	前期中間テスト 家庭訪問	芸術鑑賞教室 計算コンテスト 職場体験	夏季休業 地区(県)音楽祭	英語弁論大会 支部中体連駅伝 前期末テスト	海外派遣研修 音楽祭(文化祭)	ビートル駅伝 教育相談 後期中間テスト	漢字コンテスト 冬季休業	立志式 計算コンテスト 後期末テスト	生徒会総会 後期末テスト (1・2年)	卒業式 修了式
各種大会の予定		田村市長杯	支部中学校総合体育大会			支部新人戦大会 田村市体育協会長杯		田村富士杯	田村地方卓球大会		田村市新春卓球大会	
練習試合・遠征等	1年を通し、練習試合を行う。											
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	準備期	充実期	試合期	準備期	試合期	試合期	準備期	試合期	準備期
活動内容・ねらい	2・3年生 支部中学校総合体育大会に向け個人の課題克服や目的を持ち練習に取り組む。	1年生 ボールに慣れ、フォームや打ち方など基本的な技術を習得する。 (2・3年生) 支部中学校総合体育大会に向け試合や個人の課題克服や目的を持ち練習に取り組む。 3年生 悔いのないように大会に取り組む。	1・2年生 支部中学校総合体育大会や県中地区中学校総合体育大会までの取り組みや当日の内容から今後の練習の目標を決め、一生懸命に取り組む。	1・2年生 中体連の反省をいかし、新人戦に向けた課題克服や目的を持ち練習に取り組む。	1・2年生 中体連の反省をいかし、支部中学校新人総合体育大会に向けた課題克服や目的を持ち練習に取り組む。	1・2年生 中体連の反省をいかし、支部中学校新人総合体育大会に向けた課題克服や目的を持ち練習に取り組む。	1・2年生 来年の中体連を見据えた、基本的な練習へ取り組む。	1・2年生 来年の中体連を見据えた、基本的な練習へ取り組む。	1・2年生 来年の中体連を見据えた、基本的な練習へ取り組む。	1・2年生 来年の中体連に向け個人の課題克服や目的を持ち練習へ取り組む。	1・2年生 来年の中体連を見据えた、基本的な練習へ取り組む。	1・2年生 来年の中体連を見据えた、基本的な練習へ取り組む。

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	柔道部	顧問・外部指導者氏名	須藤 忍・松本勝昭	電話/FAX	0247-82-0102/0247-82-1888	Email	school@fmechikij.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 心身の健全な育成を目指し、体力の向上と技術の習得を図る。</p> <p>(2) 顧問及び生徒相互の望ましい人間関係を育てるとともに、練習を通して規律ある生活の習慣化を促す。</p> <p>(3) 生徒の活動の場ということを考えて指導する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1)部活動を通して、技術向上だけでなく、あいさつや礼節をしっかりと身につけた立派な人間になる。</p> <p>(2)練習できることに感謝し、互いに思いやる気持ちを育てる。</p> <p>(3)団体戦で県大会へ出場する。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 「試合で勝てるようになりたい。」「県大会で上位に入りたい」と思っている生徒が多い。</p> <p>(2) 「柔道をしている以上、黒帯を取得したい。」と思っている生徒がほとんどである。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 部活動結成会の際に、年間の活動目標や活動内容、年間計画等を明確にすることで、目標や見直しをもって活動に取り組めるようにする。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1)部内での自分の役割や存在意義をしっかりと理解させ、仲間と協力し成し遂げることでしか味わえない達成感や充実感に結びつくような部活動指導を展開する。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 土日のどちらか1日は休業日とする。土日に大会が入った場合は翌日を休業日とする。</p> <p>(2) ケガや体調が思わしくない場合は無理をさせず、通院や休養を指示し、疲労が蓄積しないように努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 個人の体格や能力に合わせた技術指導と、基礎体力の定着のためのトレーニングの実施。</p> <p>(2) 危険な技や反則技について日々の練習の中でその都度指導し、理解させる。</p> <p>(3) 活動前後に心身の状態を把握する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1)柔道における受身や打ち込み等の基礎基本の反復練習および実践練習を行う。</p> <p>(2)必要に応じて筋力や瞬発力、持久力、体幹トレーニングの実施。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 着替えて生徒と一緒に練習をする。</p> <p>(2) 普段から会話を多く交わし、悩みなどの相談を言えるような関係を築くようにしている。(部活動ノートの活用)</p> <p>(3) 試合を録画し、今後の成果につながるようなアドバイスに努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めと夏休み以降に保護者会を実施し、活動目標や内容等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) けがをした場合や様子がおかしいと思った日は保護者へ電話等で連絡をする。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1)基本としては2人組みでの練習となるため、実力や体格がほぼ同じ生徒同士で組ませる。</p> <p>(2)短時間で集中して取り組ませる練習メニューを考案し、実践している。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 電話等で、連絡を取り合い、より良い指導となるように努める。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 家庭訪問	校内陸上大会 漢字コンテスト	前期中間テスト 学習旅行	終業式 教育相談	実力テスト	前期期末テスト	校内球技大会 前期終業式 後期始業式 文化祭	学校公開 後期中間テスト	授業参観 計算コンテスト	立志式 スベリングコンテスト	後期期末テスト 授業参観	卒業式・修了式
各種大会の予定		協会主催大会	中体連 (支部・県中)	中体連 (県)	中体連 (東北・全国)	新人戦 (支部)	新人戦 (県中)	新人戦 (県) 昇段審査	協会主催大会		協会主催大会	協会主催大会
練習試合・遠征等	週末に1回程度、 県中地区強化練習 会 (不定期)										→	
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	試合期 (準備期)	準備期	充実期	試合期	充実期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・部活動の年間目標の設定。 ・新入部員の勧誘、指導	・団体強化および、各個人の技術向上に向けた指導。 ・大会での反省を生かし、体力・技能の向上を目指したトレーニング。 ・体重、体調の管理。	・大会に向けて調整練習ならびに体重や体調管理。 ・体力・技能の向上を目指したトレーニング。	・大会に向けて調整練習ならびに体重や体調管理。 ・体力・技能の向上を目指したトレーニング。	・新チームによる目標の設定。 ・精神力、体力の向上を目指したトレーニング。	・大会に向けて調整練習ならびに体重や体調管理。 ・体力・技能の向上を目指したトレーニング。	・短時間で集中して練習に取り組ませる。 ・大会に向けて調整練習ならびに体重や体調管理。 ・体力・技能の向上を目指したトレーニング。	・大会に向けて調整練習ならびに体重や体調管理。 ・体力・技能の向上を目指したトレーニング。	・筋力、体力、持久力の向上を目指したトレーニング。 ・各自で高めていきたい技能の習得を目指したトレーニング	・筋力、体力、持久力の向上を目指したトレーニング。 ・各自で高めていきたい技能の習得を目指したトレーニング	・大会で得た課題を克服するトレーニング。 ・各自で高めていきたい技能の習得を目指したトレーニング	・大会で得た課題を克服するトレーニング。 ・各自で高めていきたい技能の習得を目指したトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	西郷村立西郷第一中学校・ソフトテニス部	顧問・外部指導者氏名	小豆畑隆則・鈴木俊晴・小山伸行	電話/FAX	(0248)25-2135/(0248)48-1035	Email	school@nishigo1-j.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 体育に関する興味関心を高め、技能の向上を図るとともに、望ましい人間関係の育成に努める。		各部の活動目標 (1)ソフトテニスの楽しさを味わうとともに、技能の向上を目指し、練習に取り組む。練習を通して、部員が協力して活動できるようにする。			部員のニーズや要望・意見 (1) 全国大会出場を目標にしている。 (2) 練習時間が長いのが、学習面にも熱心に取り組みたいと考えている生徒もいる。		
学校全体の指導方針 (1) 生徒の主体性を尊重した活動を行い、活動の楽しさを味わうことができるようにさせる。		各部の指導方針 (1)全国大会に出場し、上位進出を目指すため、各部員が意欲的・積極的にソフトテニスの練習に取り組むことができるようにさせる。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 週に1日は休養日を設定している。また、土・日と2日続けて大会に出場した場合には、翌日の月曜日を休養日にしている。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行う。 (2) 職員会議等で、部活動の指導方法についての検討を行う。		各部の指導内容 (1) 技能の向上のため、基本練習に力を入れて取り組ませる。 (2) 各種大会や練習試合を通して、自己の課題を把握させる。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 部活動の時間だけでなく、学校生活内でも顧問から声かけを行う。 (2) 部活動の休憩時間内に、顧問から積極的に声かけをする。		
保護者等への説明機会 (1) 部活動保護者会において、顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1)放課後の活動をメインに、休日は、保護者と顧問が協力して指導していく体制で行う。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に定期的に、顧問から部員の練習の様子や学校での生活について情報を提供する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介	中間テスト	期末テスト	終業式	始業式		中間テスト	期末テスト	終業式	始業式	学年末テスト	卒業式・修了式
各種大会の予定		協会主催大会	地区中体連	県中体連	東北中体連 全国中体連	地区新人戦		県新人戦				連盟主催大会
練習試合・遠征等	週末に隔週で1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	週末に隔週で1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	週末に隔週で1日練習試合を設定	週末に隔週で1日練習試合を設定	週末に隔週で1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	試合期	試合期	充実期	試合期	準備期	準備期	充実期	試合期
活動内容・ねらい	・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	西郷村立西郷第一中学校・ソフトテニス部	顧問・外部指導者氏名	小豆田隆則・鈴木俊晴・小山伸行	電話/FAX	(0248)25-2135/(0248)48-1035	Email	school@nishigo1-j.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 体育に関する興味関心を高め、技能の向上を図るとともに、望ましい人間関係の育成に努める。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1)ソフトテニスの楽しさを味わうとともに、技能の向上を目指し、練習に取り組む。練習を通して、部員が協力して活動できるようにする。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 全国大会出場を目標にしている。 (2) 練習時間が長い、学習面にも熱心に取り組みたいと考えている生徒もいる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 生徒の主体性を尊重した活動を行い、活動の楽しさを味わうことができるようにさせる。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1)全国大会に出場し、上位進出を目指すため、各部員が意欲的・積極的にソフトテニスの練習に取り組むことができるようにさせる。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 週に1日は休養日を設定している。また、土・日と2日続けて大会に出場した場合には、翌日の月曜日を休養日にしている。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行う。 (2) 職員会議等で、部活動の指導方法についての検討を行う。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 技能の向上のため、基本練習に力を入れて取り組ませる。 (2) 各種大会や練習試合を通して、自己の課題を把握させる。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 部活動の時間だけでなく、学校生活内でも顧問から声かけを行う。 (2) 部活動の休憩時間内に、顧問から積極的に声かけをする。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 部活動保護者会において、顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1)放課後の活動をメインに、休日は、保護者と顧問が協力して指導していく体制で行う。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に定期的に、顧問から部員の練習の様子や学校での生活について情報を提供する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介	中間テスト	期末テスト	終業式	始業式		中間テスト	期末テスト	終業式	始業式	学年末テスト	卒業式・修了式
各種大会の予定		協会主催大会	地区中体連	県中体連	東北中体連 全国中体連	地区新人戦		県新人戦				連盟主催大会
練習試合・遠征等	週末に隔週で1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	週末に隔週で1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	週末に隔週で1日練習試合を設定	週末に隔週で1日練習試合を設定	週末に隔週で1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	試合期	試合期	充実期	試合期	準備期	準備期	充実期	試合期
活動内容・ねらい	・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	西郷村立西郷第一中学校・野球部	顧問・外部指導者氏名	飯川弘芳・竹島明・鈴木悦男	電話/FAX	(0248)25-2135/(0248)48-1035	Email	school@mishigol-j.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 体育に関する興味関心を高め、技能の向上を図るとともに、望ましい人間関係の育成に努める。		各部の活動目標 (1) 野球の楽しさを味わうとともに、技能の向上を目指し、練習に取り組む。練習を通して、部員が協力して活動できるようにする。			部員のニーズや要望・意見 (1) 県大会出場を目標にしている。 (2) 練習時間が長いのが、学習面にも熱心に取り組みたいと考えている生徒もいる。		
学校全体の指導方針 (1) 生徒の主体性を尊重した活動を行い、活動の楽しさを味わうことができるようにさせる。		各部の指導方針 (1) 県大会に出場し、上位進出を目指すため、各部員が意欲的・積極的に野球の練習に取り組むことができるようにさせる。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 週に1日は休養日を設定している。また、土・日と2日続けて大会に出場した場合には、翌日の月曜日等を休養日にしている。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行う。 (2) 職員会議等で、部活動の指導方法についての検討を行う。		各部の指導内容 (1) 技能の向上のため、基本練習に力を入れて取り組ませる。 (2) 各種大会や練習試合を通して、自己の課題を把握させる。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 部活動の時間だけでなく、学校生活内でも顧問から声かけを行う。 (2) 部活動の休憩時間内に、顧問から積極的に声かけをする。		
保護者等への説明機会 (1) 部活動保護者会において、顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) 放課後の活動をメインに、休日は、顧問と外部指導者、保護者が協力して指導していく体制で行う。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に定期的に、顧問から部員の練習の様子や学校での生活について情報を提供する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介	中間テスト 体育大会	期末テスト	終業式	始業式		中間テスト 文化祭	期末テスト	終業式	始業式	学年末テスト	卒業式・修了式
各種大会の予定		ジャイアンツ杯 さつき杯・大信杯	地区中体連	紅獅子旗野球大会 東北新人支部予選	東北新人県南予選 滝沢灯大会	地区新人大会 ふれあいカップ	県南新人大会	県新人大会				
練習試合・遠征等	週末に練習試合を設定	大会期間を除き週末に練習試合を設定	大会期間を除き週末に練習試合を設定	大会期間を除き週末に練習試合を設定	大会期間を除き週末に練習試合を設定	大会期間を除き週末に練習試合を設定	週末に隔週で1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定				大会期間を除き週末に練習試合を設定
シーズン区分	準備期	充実期	試合期	試合期	試合期	試合期	充実期	試合期	準備期	準備期	充実期	試合期
活動内容・ねらい	・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	泉崎村立泉崎中学校	顧問・外部指導者氏名	顧問 近内 淳・外部指導者 木野内 高	電話/FAX	0248-53-2412/53-4270	Email	izumijhs@shirakawa.ne.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通して、共通の趣味、関心を追求しそれぞれの能力や適正の伸長をはかる</p> <p>(2) 興味や教養を養う中で、豊かな共同生活と余暇を善用する態度を養う。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 自転車競技の楽しさを知り、ロードレーサーの安全な走行技術を学ぶ。</p> <p>(2) 県総合大会で自己の目標達成できるように練習に励む。</p> <p>(3) 仲間と協力して活動する大切さを学び、困難を克服する態度を養う。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 生徒の実態に合わせた指導内容を外部指導者と顧問が検討し、意見や希望を配慮して活動に反映する。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 部員相互の協力の下に部長、副部長を中心に担当教師指導のもとに自主、自立的な活動をさせる。</p> <p>(2) 担当教師は「共に活動する」構えを大切にし、年間の長期的見通しを持って援助指導に当たる</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 自転車の正しい乗り方やルールを理解し、安全に活動できる生徒の育成</p> <p>(2) 目標を持って練習に励み、社会性を身につける。</p> <p>(3) 仲間を思いやり、協力して活動する気持ちを育てる。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 基本は日曜日を休養とするが、大会や大会前の練習等で日曜日に活動した場合は月曜日を休養日とする。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 安全指導と顧問・外部指導者の安全に留意した練習指導の徹底</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 自転車の走行、整美、競技ルール等の知識の理解</p> <p>(2) 走行の技術と危険を回避する能力、体力増加の指導</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) ミーティングの時間の確保や練習中の助言等を適宜行う。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 各部で保護者会を行い、顧問から活動目標等について説明する機会を設けている。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1)外部指導者と顧問による実技練習(休日)</p> <p>(2)顧問による基本練習の指導(平日)</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者と顧問が連絡を密にとり、部員の状況等に合わせた練習内容や指導法を検討する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式 始業式		期末テスト	終業式	始業式	中間テスト	文化祭	期末テスト	終業式	始業式	期末テスト	卒業式 終業式
各種大会の予定			県総合体育大会									
練習試合・遠征等												
シーズン区分)	準備期	準備期	試合期	充実期	充実期	充実期	充実期	充実期	準備期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・走行技術の練習 ・新入生(初心者) を対象とした練習	・県総体に向けた 練習(トラック練習 中心)	・県総体に向けた 練習(トラック練習 中心) ・県総体の反省と 練習方法の改善 ・新チームづくり	・新チームづくり ・走行技術の練習	・走行技術の練習	・走行技術の練習	・走行技術の練習	・走行技術の練習	・基礎トレーニング グ	・基礎トレーニング グ	・基礎トレーニング グ	・基礎トレーニング グ

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	標倉町立標倉中学校 ホッケー部	顧問・外部指導者氏名	富岡 泰成・緑川 和芳	電話/FAX	0247-33-3176 / 0247-33-2224	Email	school@tanaguraj.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 同じ興味・関心を持った生徒同士が、主体的に参加し、学年を越えた集団活動のなかで自主的・自立的な態度を養い、望ましい人格を形成することを目的とする。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 生徒一人一人が興味・関心を持ち、練習に主体的に参加し、学年を越えた集団活動のなかで自主的・自立的な態度を養うことを目的とする。また、部活動指導を通して、望ましい人格の形成を図るとともに、集団内での望ましい人間関係の育成を図る。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 全国大会制覇を目指し、高い目標を掲げ努力する部員が多く見られる。ただ、意識が低い部員は、体調不良などを理由に部活動を休みがちである。</p> <p>(2) 練習等での疲労の蓄積で、家庭学習への取り組みが不十分になりがちな生徒が見られる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 生徒相互、生徒と教師の人間関係を大切にし、保護者の理解を得て協力し合える集団の育成を図る。</p> <p>(2) 生徒の願いが十分反映されるよう、自主的・民主的であることを大切にし、豊かなバランスの取れた活動運営を心がける。</p> <p>(3) 持続性と集中性のある活動によって高まった、力量ある集団をつくり、それぞれの活動の専門性を生かし、生徒会活動に還元されるようにする。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 全国大会制覇を目指し、生徒の技能と体力・運動能力の向上を図るとともに、生涯を通じて運動に親しむ資質や能力を育てる。</p> <p>(2) 他競技者との接触やボールが身体に当たることにより発生するけがの多い種目であり、練習前のアップやダウンなどに時間をかけ、身体のケアをするとともに、集中して練習に取り組ませる。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p> <p>(4) つまずきのある生徒に対しては、本人(保護者の了解を得て)、学級担任、顧問の三者で相談し、適切な助言指導を随時行う。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 筋力、全身持久力、敏捷性、瞬発力の向上のためのトレーニング。</p> <p>(2) ホッケーの基礎的な技術の習得のためのトレーニング</p> <p>(3) 様々な戦術を意識した試合形式での練習</p> <p>(4) チーム力の向上を図るためのミーティング</p> <p>(5) 望ましい人間関係の育成のためのミーティング</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートを活用し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 指導スタッフが意識的に部員とのコミュニケーションを多く取り、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 顧問は毎日の練習の支援や練習試合の引率などを行う。外部指導者は技術的な指導を中心に行ってもらい、都合のつく時には練習試合や大会の引率なども行い、実践での指導やゲームでの指示、レフリー等も積極的に行うなど活動する。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者と顧問との打合せを随時行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から科学的根拠に基づいた練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部	1学期中間テスト	1学期期末テスト	1学期終業式	2学期始業式		2学期中間テスト 文化祭	2学期期末テスト	2学期終業式	3学期始業式 学年末期末テスト (3年)	学年末期末テスト (1, 2年)	卒業式 修了式
各種大会の予定		協会主催大会 (東日本)	地区大会	協会主催大会 (東北)	東北大会 全国大会	地区新人戦		東北新人大会 協会主催大会				
練習試合・遠征等	県外遠征		地元での招待試合 県外遠征	県外遠征			県外遠征		県外遠征		県外遠征	地元での招待試合
シーズン区分)	準備期	充実期	充実期	充実期	試合期	準備期	充実期	試合期	準備期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会を通して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・試合形式の練習を中心とした実践的なトレーニング	・練習試合を通して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・試合形式の練習を中心とした実践的なトレーニング	・大会を通して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・試合形式の練習を中心とした実践的なトレーニング		・新チーム体制の確立 ・基礎的な技術の習得に向けたトレーニング	・練習試合を通して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・試合形式の練習を中心とした実践的なトレーニング		・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県津若松市立河東中学校・弓道部	顧問・外部指導者氏名	顧問：南雲 幸恵・外部指導者：目黒 明美	電話/FAX	0242-75-3011 / 0242-75-3012	Email	school@kawahigashiri.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 全校生徒、全職員がそれぞれの部に所属し、集団活動を通して調和のとれた望ましい人間関係の育成に努める。 (2) 部活動を通して、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (3) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。		各部の活動目標 (1) 中体連、全国大会出場を目指して県大会優勝を目指す。 (2) 弓道を通して礼儀作法を身につけ、社会に通用する人格の形成を図る。 (3) 部員同士で技術等を教え合う中から、互いに協力し感謝し合う関係を育てる。			部員のニーズや要望・意見 (1) 大会で勝ち進める技術を身につけたいと考えている部員と弓道を楽しみたいと考えている部員が混在している。 (2) こつこつ基礎練習を行えない生徒と、弓道の本質を理解し、的確な練習を重ねられる生徒と二極化している。		
学校全体の指導方針 (1) 学年の発達段階に応じて、個々の能力に応じた指導を心がける。 (2) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (3) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。		各部の指導方針 (1) 弓道の技術習得を通して、粘り強く努力を積み重ねることの大さを理解させる。 (2) あいさつや礼儀、美しい立ち居振る舞いの習得を通して、武道の精神に触れさせる。 (3) 率先して仕事を見つけて働いたり、練習方法を工夫・試行錯誤したりと、自分で考えて行動できる生徒の育成に努める。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 (1) 射技と体配 (2) 安全に配慮した部活動 (3) 弓道に必要な体力作りのための練習			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習を振り返り、感じた課題や成果を記述したプリントに顧問が目を通し、指導・支援の改善に活かす。 (2) 生徒観察と日常的な声掛けを心がけ、部内における人間関係や指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めの部活動保護者会において、顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 各種大会の成績について便りを作り、保護者に報告する。		各部の指導方法 (1) 習得段階に応じたメニューを作成し反復練習させることで、基本を確実に定着させる。 (2) 土日には試合形式の練習を行い、体配を修練させ、試合運営に慣れさせる。 (3) 正しい射形を身に付けさせるために、顧問と外部講師が一人ひとりに合った改善点を見つけ指導する。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 生徒各自の課題や成長した部分についてこまめに情報交換をし、同一歩調で指導に当たれるようにする。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部		期末考査	終業式	始業式		中間考査	文化祭 期末考査	終業式	始業式	期末考査	卒業式・修了式
各種大会の予定	春季大会	昇段審査	中体連総合大会 県中学生大会		全国中体連大会	中体連新人戦 秋季大会	昇段審査			初射会	市民体育祭	
練習試合・遠征等								合同練習会	練習試合			練習試合 合同練習会
シーズン区分)	<試合期> 1年：基礎練習 体力作り 2・3年：射技の向上	<充実期>	<試合期>	<充実期> 1・2年：射技の向上と体配の習得	<充実期>	<試合期>	<充実期> 1・2年：射技の向上と体配の習得	<準備期> 体力作り 巻簾練習(射技の振り返りと改善)	<準備期>	<準備期>	<準備期>	<準備期>
活動内容・ねらい	・射法八節の習得 ・基礎体力の向上 ・体配の習得 ・弓道に取り組む心構え						・大会を通して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・より高い技術の習得を目指した練習(手の内と取懸けの取得、引き分けと離れの改善) ・基礎体力の向上				

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	喜多方市立第一中学校・陸上競技部	顧問・外部指導者氏名	顧問 三浦 祐子・灰塚 祐紀・外部指導者 高橋 聡	電話/FAX	0241-22-0274	Email	
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をおとして、体力の向上と強い精神力を育てる。</p> <p>(2) 勝つことよりも「ルールとマナー」を優先させる。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 上位大会への出場や自己新記録達成を目指し、毎日の活動に積極的に参加する。</p> <p>(2) 部活動を通して、心身を鍛え、ルールとマナーを大切にすることを学ぶ。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 上位大会を目指す生徒に対しては、各種の大会への積極的な参加を促す。</p> <p>(2) 自己記録更新を目指す生徒に対しては、各種大会へ参加を促しながら、各種大会での自己記録更新を目標とさせる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員全員が見通しを持って活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 個人の能力に応じて練習計画を立て、けがの防止に努める</p> <p>(2) 強化練習会に積極的に参加し、上位大会進出を達成させる。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 週1回は休みを入れる、大会後は休みを必ずとることを計画する。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに、運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) 保健主事や養護教諭を中心に、AEDや救命救急法の研修を計画し、緊急時への備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を設置し、部員や保護者からの訴えを把握する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 短距離、中距離、長距離、フィールド競技など技術練習と、全体の走力アップなどバランスを考えて練習方法を組み立てる。</p> <p>(2) 器具の安全点検を定期的に行い、安全面の配慮に務める。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習日誌を通して、部員とのコミュニケーションを図る。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度初めの保護者会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や、年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 短・跳躍系においては、スピードとスピード持久に重点をおいて指導する。</p> <p>(2) 長距離系においては、スピードと持久力に重点をおいて指導する。</p> <p>(3) 全種目共通して、全身の体幹、筋力アップを目標とした練習を取り入れて指導する。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 生徒個人にあった練習計画を共有し、タータン競技場での練習に共に指導にあたるようにする。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部		期末テスト	終業式	夏季休業		中間テスト 文化祭	期末テスト	終業式		期末テスト	卒業式
各種大会の予定	春季陸上大会	耶麻陸上大会 全会津陸上大会	全会津総体陸上大会	県陸上大会 通信陸上大会	東北大会 全国大会	全会津駅伝大会 全会津新人陸上大会	県新人陸上大会 秋季陸上大会					
練習試合・遠征等		タータン競技場での練習会	県強化合宿	タータン競技場での練習会	県強化合宿 全会津陸協強化練習会	タータン競技場での練習会	タータン競技場での練習会		強化練習会	強化練習会	強化練習会	強化練習会 県強化合宿
シーズン区分)	仕上げ期	試合期	仕上げ期	試合期	試合期	試合期	試合期	移行期	鋭練期	鋭練期	鋭練期	移行期
活動内容・ねらい	・春季陸上大会参加を当面の目標とし、けがのないように参加させる。	・耶麻大会上位入賞を目指し、全会津大会へ出場をねらう。 ・全会津大会上位5位入賞をめざし、県大会出場を目標とする。	・県大会前の調整期間を大切に過ごし、疲労回復とけが予防をしながら練習を継続する。	・県大会で上位入賞を目指し、全国標準記録突破を目指す。	・東北大会、全国大会での上位入賞を目指す。	・全会津駅伝、新人大会の出場を果たし、県大会を目指す。	・県陸上大会、県駅伝大会上位入賞をめざす。 ・今シーズン最後の大会に出場し、今シーズンを気持ちよく終了させる。	・シーズンオフでの体力トレーニングを中心に行う。 ・体力づくり	・強化練習会に参加し、モチベーションを上げていく。 ・体力づくり	・強化練習会に参加し、モチベーションを上げていく。 ・体力づくり	・強化練習会に参加し、モチベーションを上げていく。 ・体力づくり	・強化練習会に参加し、モチベーションを上げていく。 ・体力づくり

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	喜多市立第一中学校・バレーボール部	顧問・外部指導者氏名	田代茂 三浦信枝 ・ 渡部喜代治	電話/FAX	0241-22-0274	Email	school@kitakata1-j.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動とおして、体力や運動技能の向上を図るとともに、人間教育の一環として、目標に向かって努力する生徒、他者と協働できる社会性をもつ生徒を育て、自信をもって何事にも主体的に取り組む基盤をスポーツを通じて培う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。		各部の活動目標 (1) 部活動を通して、学年の枠を越えて、体力と技能の向上を目指し、競技を通じて精神と体力の望ましい成長を目指す。 (2) 技能と体力の向上を目指すという同じ目標を持つ集団として、自主的・自発的かつ共同的な活動を行い、集団の一員としての自覚を深め、集団全体の充実・向上につとめようとする態度の伸長を目指す。			部員のニーズや要望・意見 (1) 全大会出場に向けて、基本的な技能の習得から、実践的な技能まで、幅広い技能の習得を希望している。 (2) 目標達成に向けて、部内でよく協力し合いながら、取り組んでいる。実力に差がある部員もいるが、分け隔てなく練習できる状態である。		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員個々の性格、特徴を的確に把握しながら、集団の特性や個に応じた科学的な、心身の発達に配慮したバランスの取れた練習を行う。		各部の指導方針 (1) 学校、地域の指導者、保護者会の三者が連携を図りながら、部員個々がそれぞれの目標を達成できるように、生徒活動のバックアップを行う。 (2) 特徴的にも、技能的にも様々な生徒が集まる部という集団が、共に支え合いながら技能習得に向けて努力する集団になるように、部活動の指導に取り組む。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。 (2) スケジュール調整を適切に行い、状況に応じて、平日でも練習を早く切り上げ、休息時間を確保させていく。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) 生徒へ事故防止に向けての意識付けを十分行い、準備運動など十分行わせ、事故防止に向け取り組ませる。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備し、服務倫理委員会でも定期的にふり返りや、具体的な事例研究を行う。		各部の指導内容 (1) 体力作り、基本技術練習、試合形式、練習試合と段階を踏みながら、経験者、初心者ともに技能の向上が図れるように指導内容を計画する。 (2) 高い目標を掲げる生徒を中心に、より専門的で、高度な練習を取り入れ、生徒の目標達成に向けて取り組ませる。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。 (2) 日頃の会話も大切に、その中から、悩みや要望をくみ取るように積極的にレポート形成につとめる。		
保護者等への説明機会 (1) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。 (2) 年度初めや年度途中で顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) 顧問が全体を統括し、指導者が主に技能面で指導にあたる。 (2) 通常の学校の部活動では、指導者と顧問が連携をとりながら練習内容の一貫性を確保する。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 打合せ時には、常に方針・方法について確認を徹底する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式 始業式 部活動結成	校内陸上大会	定期テスト	終業式	始業式	定期テスト	学校祭	定期テスト	終業式	始業式		卒業式 終業式
各種大会の予定	協会主催大会		支部大会 地区大会	県大会		支部大会	地区大会	県大会				協会主催大会
練習試合・遠征等	練習試合	練習試合			練習試合							
シーズン区分)	準備期(1年) 試合期(23年)	準備期(1年) 試合期(23年)	基礎練習(1年) 試合期(23年)	基礎練習(12年)	基礎練習期	試合期	試合期	基礎練習期	基礎練習期	充実期	充実期	充実期
活動内容・ねらい	2・3年生は試合形式を取り入れ、実力の向上を目指す。初心者は体力向上を目指す。	2・3年生は試合形式中心に行い、実力の向上を目指す。初心者は体力向上を目指す。	2・3年生は試合形式中心に行い、実力の向上を目指す。初心者は基本技術向上を目指す。	基礎的な技能の定着といっそうの向上を目指す。	基礎的な技能の定着といっそうの向上を目指す。	試合形式を取り入れ、試合を進められるようにする。	試合形式を取り入れ、試合を進められるようにする。	結果を反省し、基礎練習を行い、基本的な技能の定着を目指す	基礎技能の定着を目指す	基礎技能の定着を目指す	試合形式を取り入れ、試合を進められるようにする。	試合形式を取り入れ、試合を進められるようにする。

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	喜多方市立会北中学校・野球部	顧問・外部指導者氏名	豊島俊幸・武藤正・平林新一	電話/FAX	0241-36-2038 / 0241-36-2162	Email	school@kaihokuj.fka.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 苦しいことやつらいことに耐えて、続ける勇気を持つ生徒を育てる。</p> <p>(2) マナーや礼儀が部活動・大会以外の日常生活に生かせる生徒を育てる。</p> <p>(3) 活動の中で自分なりに創意工夫し、力を伸ばせる生徒を育てる。</p> <p>(4) 自己及び部の目標に向かって積極的に取り組み、自己の役割については、責任を果たせる生徒を育てる。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 部員全員が同じ目標を掲げ、日々の練習に取り組む。</p> <p>(2) 個人の目標に向け、自分の課題を明確にすることで、効率の良い練習を目指す。</p> <p>(3) 時と場に応じた言葉遣いや、部の中での自分の役割を自覚させる。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 試合で勝ちたいという強い思いをもつ部員が多いが、中には仕方ないから野球部に入部したという、意識の低い部員もいる。</p> <p>(2) 定期考査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 全生徒参加とし、1年間を通じて活動する。</p> <p>(2) 年間計画を作成し、複数顧問教師の指導、監督のもとに効率の良い練習をさせる。</p> <p>(3) チームの和を大切にし、有意義で充実した活動を支援、指導する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 1年間を通じて活動する。</p> <p>(2) 効率の良い練習をさせる。</p> <p>(3) チームの和を大切にし、有意義で充実した活動を支援、指導する。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 明るく向上心を持って、全力で練習や大会に取り組む。</p> <p>(2) キャッチボールやトスバッティングなどの基本的な練習をしっかりと取り組む。</p> <p>(3) 守りを中心に、連係プレーを全体で取り組む。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を話し合うことで、顧問と部員が思いを共有している。</p> <p>(2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) PTA総会や学年保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 部員が8名しかいないので、全員が協力し合いながら練習、準備等に取り組む。</p> <p>(2) 基礎的なことを大切に繰り返すことで、技能を身につけさせていく。</p> <p>(3) 一つのプレーの内容について、考えながら練習するようにする。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、課題を克服するための練習方法などを事前に確認する。</p> <p>(2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式 始業式 部活動紹介		期末考査	終業式				期末考査	終業式		期末考査	卒業式・修了式
各種大会の予定			地区大会			地区新人戦						
練習試合・遠征等		練習試合実施			夏休み期間中に練習試合を行う。	週末に隔週で練習試合を行う。						
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	準備期	充実期	試合期	充実期	充実期	準備期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・キャッチボールやトスバッティングなどの基本的な練習	・守りの連携プレー ・バントやエンドランなどの攻撃バターの練習	・大会に向けた試合形式の練習	・走ることを中心とした基礎体力の向上を目指す練習	・キャッチボールやトスバッティングなどの基本的な練習	・守りの連携プレー ・バントやエンドランなどの攻撃バターの練習	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・走ることを中心とした基礎体力の向上を目指す練習	・走ることを中心とした基礎体力の向上を目指す練習	・走ることを中心とした基礎体力の向上を目指す練習	・走ることを中心とした基礎体力の向上を目指す練習

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	会津坂下町立坂下中学校・柔道部	顧問・外部指導者氏名	小野里 武、猪股亜希子、物江 正博	電話/FAX	0242-83-2356 / 0242-83-1008	Email	hangsya@town.aizubanke.fukushima.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、人間教育の一環として、目標に向かって努力する生徒、他者と協働できる社会性をもつ生徒を育て、自信をもって何事にも主体的に取り組む基盤をスポーツを通じて培う。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 競技力向上を目指し練習活動を行うとともに、体力の向上や武道を通しての礼儀や辛いことや苦しいことへ立ち向かう姿勢、相手を思いやる心を育成する。</p> <p>(2) 互いに高め合い、教え合いのできる自主的精神にのっとった練習活動ができる。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 個人、団体ともに全国大会を目指せる布陣であり、生徒も意欲的に活動しているが、一方では学習習慣が身につけていない生徒や基礎基本が定着していない生徒も散見される。</p> <p>(2) 親元から離れて協同生活している生徒が多いので、生活管理・健康管理を、管理の輪番保護者と連携しながら厳しく進める必要がある。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的の見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員個々の性格、特徴を的確に把握しながら、集団の特性や個に応じた科学的な、心身の発達に配慮したバランスの取れた練習を行う。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 各学期、及び各月、などの単位で技能習得の目標を持ち、計画的に練習を行えるようまた、各自の技能習得の意欲が喚起できるよう、個人の課題が持てるよう活動に取り組ませる。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。</p> <p>(2) スケジュール調整を適切に行い、状況に応じて、平日でも練習を早く切り上げ、睡眠時間を確保させていく。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) 教師・指導者がいない時の練習を極力抑え、やむを得ない時は、道具を使わない基本的な練習を行わせる。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備し、服務倫理委員会でも定期的にふり返りや、具体的な事例研究を行う。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 施設の安全点検、清掃、整理清掃を必ず行い、互いに健康と安全に留意した態度を育成する。</p> <p>(2) 各種の反復練習を多く取り入れ正しいフォーム、技の習得を行う。</p> <p>(3) 個人の技能の程度と目的に応じた練習を選択させ実践させる。</p> <p>(4) 武道の最終目標である、「人間性を磨き高める」に常に立ち返り、生徒に日々の言動を振り返らせる。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p> <p>(2) 日頃の会話が大切にし、その中から、悩みや要望をくみ取れるように積極的にレポート形成につとめる。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 保護者会の組織を充実させ定期的に集会を行い、体制の見直し、練習活動の反省を指導者を交えて行う。</p> <p>(2) 定期的に毎日の大会や練習内容と場所などの予定表を2ヶ月単位で生徒を通じて配布する。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 打合せ時には、常に方針・方法について確認を徹底する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式 始業式 部活動結成	校内陸上大会	定期テスト	終業式	定期テスト	定期テスト	学校祭	定期テスト	終業式	始業式		
各種大会の予定	協会主催大会	協会主催大会	中体連支部大会 地区大会	県大会	東北大会 全国大会	支部新人戦	地区新人戦	県新人戦	サニックス福岡国 際柔道大会			
練習試合・遠征等	関東地区合同練習	兵庫県ハーベスト 杯	関東遠征	関東遠征	関東遠征 青森遠征	関東遠征	関東遠征	関東遠征 靄懸杯	愛知県遠征 東京日体荏原高校 合宿	関東遠征		
シーズン区分)	準備期(1年) 強化期(23年)	準備期(1年) 強化期(23年)	準備期(1年) 強化期(23年)	強化期	調整期	強化期	強化期	強化期	強化期	強化期		
活動内容・ねらい	初心者基本的技能を習得 23年生は中体連に向けて技能の向上を目指す。	初心者基本的技能を習得 23年生は中体連に向けて技能の向上を目指す。	初心者基本的技能を習得 23年生は中体連に向けて技能の向上を目指す。	全国大会予選に技能の向上を行う	東北大会全国大会に向けて調整を行う。	全国大会に向けて調整を行う。	12年生は新人中体連に向けて技能の向上を目指す。	12年生は新人中体連に向けて技能の向上を目指す。	全国強豪校と対戦や練習を行い経験値を上げる。	全国強豪校と対戦や練習を行い経験値を上げる。		

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	会津坂下町立坂下中学校・バドミントン部	顧問・外部指導者氏名	塚原直樹、弦弓 幸、安藤信之	電話/FAX	0242-83-2356 0242-83-1008	Email	hangacyu@koyu.sizubango.fukushima.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、人間教育の一環として、目標に向かって努力する生徒、他者と協働できる社会性をもつ生徒を育て、スポーツを通して自信をもって何事にも主体的に取り組む基盤を培う。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通して、学年の枠を越えて、体力と技能の向上を目指し、競技を通じて精神と体力の望ましい成長を目指す。</p> <p>(2) 技能と体力の向上を目指すという同じ目標を持つ集団として、自主的・自発的かつ共同的な活動を行い、集団の一員としての自覚を深め、集団全体の充実・向上につとめようとする態度の伸長を目指す。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 地区上位の実力をもち、県大会から東北大会へと目標を定め活動している。目標達成に向けての部員の意識は高く、自主的に練習に取り組んでいる。</p> <p>(2) 目標達成に向けて、部内でよく協力し合いながら、取り組んでいる。実力に差がある部員もいるが、分け隔てなく練習できる状態である。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員個々の性格、特徴を的確に把握しながら、集団の特性や個に応じた科学的な、心身の発達に配慮したバランスの取れた練習を行う。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 学校、地域の指導者、保護者会の三者が連携を図りながら、部員個々がそれぞれの目標を達成できるように、生徒活動のバックアップを行う。</p> <p>(2) 特徴的にも、技能的にも様々な生徒が集まる部という集団が、共に支え合いながら技能習得に向けて努力する集団になるように、部活動の指導に取り組む。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。</p> <p>(2) スケジュール調整を適切に行い、状況に応じて、平日でも練習を早く切り上げ、睡眠時間を確保させていく。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) 生徒へ事故防止に向けての意識付けを十分行い、準備運動など十分行わせ、事故防止に向け取り組ませる。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備し、服務倫理委員会でも定期的にふり返りや、具体的な事例研究を行う。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 体力作り、基本技能練習、試合形式、練習試合と段階を踏みながら、経験者、初心者ともに技能の向上が図れるように指導内容を計画する。</p> <p>(2) 高い目標を掲げる生徒を中心に、より専門的で、高度な練習を取り入れ、生徒の目標達成に向けて取り組ませる。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p> <p>(2) 日頃の会話も大切にし、その中から、悩みや要望をくみ取れるように積極的にラポート形成につとめる。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p> <p>(2) 年度初めや年度途中で顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 休日の練習では顧問と校外指導者が、夜間の保護者会主催の練習会では保護者が安全面で、コーチが技能面で指導にあたる。</p> <p>(2) 通常の学校の部活動では、(1)の練習内容を基本として行い練習内容の一貫性を確保する。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 打合せ時には、常に方針・方法について確認を徹底する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式 始業式 部活動結成	校内陸上大会	定期テスト	終業式	始業式	定期テスト	学校祭	定期テスト	終業式	始業式		
各種大会の予定	協会主催大会	協会主催大会	支部大会 地区大会	県大会 協会主催大会		協会主催大会 支部大会	地区大会	県大会	東北大会			
練習試合・遠征等	練習試合	練習試合			練習試合							
シーズン区分)	準備期(1年) 試合期(23年)	準備期(1年) 試合期(23年)	基礎練習(1年) 試合期(2・3年)	基礎練習(1・2年) 試合期(2・3年)	基礎練習期	試合期	試合期	基礎練習期	基礎練習期	充実期		
活動内容・ねらい	2・3年生は試合形式を取り入れ、実力の向上を目指す。初心者は体力向上を目指す。	2・3年生は試合形式中心に行い、実力の向上を目指す。初心者は体力向上を目指す。	2・3年生は試合形式中心に行い、実力の向上を目指す。初心者は基本技能向上を目指す。	2・3年生は試合形式中心に行い、実力の向上を目指す。初心者は基本技能向上を目指す。	基礎的な技能の定着といっそうの向上を目指す。	試合形式を取り入れ、試合を進められるようにする。	試合形式を取り入れ、試合を進められるようにする。	結果を反省し、基礎練習を行い、基本的な技能の定着を目指す	基礎技能の定着を目指す	基礎技能の定着を目指す		

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	会津坂下町立坂下中学校・卓球部	顧問・外部指導者氏名	顧問 二瓶静男、佐藤容子 外部：佐瀬 清晴	電話/FAX	0242-83-2356/0242-83-2008	E-mail	hangecyu@twon.aizubange.fukushima.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をとおして、体力や運動技能の向上を図るとともに、人間教育の一環として、目標に向かって努力する生徒、他者と協働できる社会性をもつ生徒を育て、自信をもって何事にも主体的に取り組む基礎をスポーツを通じて培う。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づき自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通して、学年の枠を越えて、体力と技能の向上を目指し、競技を通じて精神と体力の望ましい成長を目指す。</p> <p>(2) 技能と体力の向上を目指すという同じ目標を持つ集団として、自主的・自発的かつ共同的な活動を行い、集団の一員としての自覚を深め、集団全体の充実・向上につとめようとする態度の伸長を目指す。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 方部上位の実力はあるが、一人一人の能力に大きな差があり、上位大会を目指す生徒と楽しむことを目的としている部員が混在する。</p> <p>(2) 学校として全員部活動入部であるため、やりたくはないのだが入部している生徒・ほとんど部活動に顔を出さない生徒も少数だが存在している。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的の見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員個々の性格、特徴を的確に把握しながら、集団の特性や個に応じた科学的な、心身の発達に配慮したバランスの取れた練習を行う。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 学校、地域、指導者、保護者の三者が連携を図りながら、部員個々がそれぞれの目標を達成できるように、生徒活動のバックアップを行う。</p> <p>(2) 発達段階も、技能的にも異なる様々な生徒が集まる部という集団が、共に支え合いながら技能習得に向けて努力する集団になるように、部活動の指導に取り組む。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 参加大会のスケジュールにもよるが、日曜日は基本的に休日に充てている。</p> <p>(2) メリハリをつけた練習を行い、弛緩と集中を使い分けながら練習効果を上げる事により、疲労を最小限に抑えるよう心がけている。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) 生徒へ事故防止に向けての意識付けを十分に行い、準備運動など十分に行わせ、事故防止に向けて取り組ませる。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備し、服務倫理委員会でも定期的にふり返りや、具体的な事例研究を行う。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 体力作り、基本技能練習、試合形式、練習試合と段階を踏みながら、経験者、初心者ともに技能の向上が図れるように指導内容を計画する。</p> <p>(2) 高い目標掲げる生徒を中心に、より専門的、高度な練習を取り入れ、生徒の目標達成に向けて取り組ませる。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p> <p>(2) 日頃の会話も大切に、その中から、悩みや要望をくみ取れるように積極的にレポート形成につとめる。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p> <p>(2) 年度初めや年度途中で顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 外部コーチが技術面の指導を受け持ち、学校顧問は生徒管理・安全管理を中心に受けもつ。</p> <p>(2) 通常の部活動で外部コーチが不在の時は、外部コーチが指導した内容の反復を行うが、レベル差が激しいため初・中レベルの生徒は基本練習を中心に行う。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 打合せ時には、常に方針・方法について確認を徹底する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式 始業式 部活動結成	校内陸上大会	定期テスト	終業式	始業式	定期テスト	学校祭	定期テスト	終業式	始業式		
各種大会の予定	・喜多方スプリングオープン卓球大会	・学年別卓球選手権大会	・両沼中体連大会 ・全会津中体連大会	・喜多方サマーオープン卓球大会 ・県中体連大会	・卓球選手権大会(カデットの部)	・白虎杯卓球大会 ・両沼中体連新人大会	・全会津中学校新人卓球大会 ・喜多方オータムオープン卓球大会	・県中学校新人卓球大会	・喜多方ウィンターオープン卓球大会			
練習試合・遠征等	随時実施											→
シーズン区分)	2、3年生主体の活動			→	1、2年生主体の活動							→
活動内容・ねらい	基本技術の向上を目指して反復練習を行う。	大会や練習試合を通して、技術の強化を図る。		→	基本技術と体力の向上を目指して練習を行う。	大会や練習試合を通して、技術の強化を図る。	→	次年度へ向けて、基本技術と体力の向上を目指して練習を行う。				→

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	只見町立只見中学校・特設クロスカントリースキー部	顧問・外部指導者氏名	顧問：日黒 貴裕 外部指導者：渡部 一昭	電話/FAX	TEL 0241-84-2022 FAX 0241-84-2050	Email	tadacyuu@tadami.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 特設クロスカントリースキー部の活動により、運動量が低下する冬期間の体力の向上を図る。</p> <p>(2) スキーという地域性の高い部活動に取り組むことにより、地域の中の中学生であることを自覚し、自主的・自発的な活動を促す。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 特設クロスカントリースキー部は、大会で勝ち抜き上部大会に勝ち進むことを目的としている部員と常設部の冬季の体力づくりを目的としている部員が混在している。</p> <p>(2) 冬季の常設部の活動は、活動時間の関係で十分に活動できないことから、特設スキー部の活動には積極的に参加すると考えられる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 特設クロスカントリースキー部の活動においては、年間計画に基づき、生徒の負担過重にならないよう計画するとともに、冬期間という環境による事故等に十分に注意して行う。</p> <p>(2) 外部指導者と顧問の事前打ち合わせやコミュニケーションを密にしながら、専門的な指導のもと、具体的な成果が見える指導をしたい。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 特設スキー部の活動は、12月から2月の集中した期間のため、過剰な練習にならないように注意する。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 特設クロスカントリースキー部の活動においては、生徒の体力向上はもとより、クロスカントリースキーの技術向上を目指す活動内容となるよう指導する。</p> <p>(2) 活動内容としては、県大会または上部大会に参加でき、生徒が達成感を味わえるよう、外部指導者と連携した指導体制を整備する。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 指導スタッフが意識的に個別相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 特設部活動の顧問、副顧問を配置し、派遣指導者だけの指導とならないよう外部体制を確立して、計画的な取り組みとする。</p> <p>(2) 特設部活動の活動について、特設部活動だより等を発行し、外部指導者による指導の成果等について情報提供を行う。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打ち合わせを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供する。</p> <p>(2) 外部指導者からは、技術的な指導や練習内容及び練習方法等の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式 第1学期始業式 部活動紹介		期末テスト	第1学期終業式			紅葉祭(文化祭)	特設スキー部編成 期末テスト	第2学期終業式	第3学期始業式	学年末テスト	卒業式・修了式
各種大会の予定										県中体連スキー大会 東北中学校スキー大会	全国中学校スキー大会	
練習試合・遠征等	特設部活動のため活動なし								週末・冬季休業中 をメインに練習	大会期間を除き、 冬季休業中の練習		
シーズン区分)							準備期間	準備期間	練習期	試合期	試合期	
活動内容・ねらい								陸上トレーニングを中心に、持久力を高めるトレーニングを行う。	大会を見据えた走り込みを中心にトレーニングを行う。指導者には、技術的な指導を行っていただく。	大会を見据えたスピード練習を中心にトレーニングを行う。指導者には、技術的な指導を中心に行っていただく。また、大会にも同行していただき、技術指導をお願いする。		

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	大熊町立大熊中学校・剣道部	顧問・外部指導者氏名	鈴木襄美・田澤憲郎・牛来清政	電話/FAX	0242-23-7214 / 0242-37-7157	Email	
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 日本の伝統を重んじ、世界と未来に目を向けながら互いに認め合い、学び合う、たくましい生徒の育成。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1)練習を通じて、励まし合うことの大切さや認め合うことの大切さを育成する。</p> <p>(2)武道の礼儀作法や精神を学ぶことにより、挨拶・返事・片付けなどが積極的にできるようにする。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 試合で1本を取ることを目標としている部員と、不登校傾向で休まずに参加することを目標としている部員がいる。</p> <p>(2) 休日は家族との時間を優先し、休むことが多い。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標を示し、中学校3年間を通じて見直しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 共通の興味・関心や目的を持つ異年齢の集団活動を通して、互いに認め合い、高め合うたくましい生徒の育成。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 試合ごとに個人目標を設定し、掲示することで、見直しをもって活動できるようにする。</p> <p>(2) 部員の現状を把握し、競技力に応じた指導を行う。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 日曜日を休業日としている。週休日に大会があった場合は、翌日を休業日としている。</p> <p>(2) けがや痛みを訴える部員に対しては、痛みのある部位を使わないトレーニングや通院を指示し怪我の予防に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) 緊急時対応マニュアルを作成し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 基礎練習をしっかりと行い正しい基本技を習得すると共に、個人の状態に適した課題や応用技ができるようにする</p> <p>(2) 試合の映像を活用し、部員の状態に応じた指導を行う。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 月ごとに練習計画を作成し、事前に出欠の確認を行う。</p> <p>(2) 休憩時間などに指導スタッフが積極的に話しかけ、部内の関係改善に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度初めのPTA総会において、校長や部活動担当者から活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 基礎練習や筋力トレーニングやランニングを行い、基礎体力の向上に努める。</p> <p>(2) 地稽古やかかり稽古など実践形式での稽古を行い、試合の感覚を身につける。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者と指導日に練習前の打ち合わせを行い、部員の学校生活の情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から昇段審査の内容や練習方法の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介		期末考査	スポーツ大会 終業式		町運動会	中間考査 文化祭	ヤングアメリカン 期末考査	終業式		期末考査	卒業式・終了式
各種大会の予定		三瓶旗少年剣道大会	地区大会		東日本少年剣道大会	地区新人大会	伊南武道館少年剣道大会	昇段審査			市民体育祭	
練習試合・遠征等		大会後に稽古会を設定		週末に合同練習を設定	大会後に稽古会を設定	日本剣道形練習会への参加		地区合同練習会への参加			大会後に稽古会を設定	
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期間	充実期	試合期	試合期	充実期	準備期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 基礎強化のための基本技練習 筋力・俊敏性の向上を目指したトレーニング 	<ul style="list-style-type: none"> 大会のための地稽古 得意技の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 大会のための地稽古 得意技の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 大会のための地稽古 大会の反省をいかした技の練習 	<ul style="list-style-type: none"> 大会の反省をいかした技の練習 昇段審査のための型の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 大会のための地稽古 大会の反省をいかした技の練習 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎強化のための基本技練習 応用技の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 応用技・得意技の強化 昇段審査のための型の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎強化のための基本技練習 大会を通じて見えてきた得意技の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎強化のための基本技練習 筋力・持久力の向上を目指したトレーニング 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎強化のための基本技練習 筋力・持久力の向上を目指したトレーニング 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎強化のための基本技練習 筋力・俊敏性の向上を目指したトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	大熊町立大熊中学校・剣道部	顧問・外部指導者氏名	鈴木葵美・田澤憲郎・牛来清政	電話/FAX	0242-23-7214 / 0242-37-7157	Email	
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 日本の伝統を重んじ、世界と未来に目を向けながら互いに認め合い、学び合う、たくましい生徒の育成。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1)練習を通じて、励まし合うことの大切さや認め合うことの大切さを育成する。</p> <p>(2)武道の礼儀作法や精神を学ぶことにより、挨拶・返事・片付けなどが積極的にできるようにする。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 試合で1本を取ることを目標としている部員と、不登校傾向で休まずに参加することを目標としている部員がいる。</p> <p>(2) 休日は家族との時間を優先し、休むことが多い。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標を示し、中学校3年間を通じて見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 共通の興味・関心や目的を持つ異年齢の集団活動を通して、互いに認め合い、高め合うたくましい生徒の育成。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 試合ごとに個人目標を設定し、掲示することで、見通しをもって活動できるようにする。</p> <p>(2) 部員の現状を把握し、競技力に応じた指導を行う。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 日曜日を休業日としている。週休日に大会があった場合は、翌日を休業日としている。</p> <p>(2) けがや痛みを訴える部員に対しては、痛みのある部位を使わないトレーニングや通院を指示し怪我の予防に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) 緊急時対応マニュアルを作成し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 基礎練習をしっかりと行い正しい基本技を習得すると共に、個人の状態に適した課題や応用技ができるようにする</p> <p>(2) 試合の映像を活用し、部員の状態に応じた指導を行う。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 月ごとに練習計画を作成し、事前に出欠の確認を行う。</p> <p>(2) 休憩時間などに指導スタッフが積極的に話しかけ、部内の関係改善に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度初めのPTA総会において、校長や部活動担当者から活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 基礎練習や筋力トレーニングやランニングを行い、基礎体力の向上に努める。</p> <p>(2) 地稽古やかかり稽古など実践形式での稽古を行い、試合の感覚を身につける。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者と指導日に練習前の打ち合わせを行い、部員の学校生活の情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から昇段審査の内容や練習方法の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介		期末考査	スポーツ大会 終業式		町運動会	中間考査 文化祭	ヤングアメリカン 期末考査	終業式		期末考査	卒業式・終了式
各種大会の予定		三瓶旗少年剣道大会	地区大会		東日本少年剣道大会	地区新人大会	伊南武道館少年剣道大会	昇段審査			市民体育祭	
練習試合・遠征等		大会後に稽古会を設定		週末に合同練習を設定	大会後に稽古会を設定	日本剣道形練習会への参加		地区合同練習会への参加			大会後に稽古会を設定	
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期間	充実期	試合期	試合期	充実期	準備期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・基礎強化のための基本技練習 ・筋力・俊敏性の向上を目指したトレーニング	・大会のための地稽古 ・得意技の強化	・大会のための地稽古 ・得意技の強化	・大会のための地稽古 ・大会の反省をいかした技の練習	・大会の反省をいかした技の練習 ・昇段審査のための型の習得	・大会のための地稽古 ・大会の反省をいかした技の練習	・基礎強化のための基本技練習 ・応用技の習得	・応用技・得意技の強化 ・昇段審査のための型の習得	・基礎強化のための基本技練習 ・大会を通じて見えてきた得意技の強化	・基礎強化のための基本技練習 ・筋力・持久力の向上を目指したトレーニング	・基礎強化のための基本技練習 ・筋力・持久力の向上を目指したトレーニング	・基礎強化のための基本技練習 ・筋力・俊敏性の向上を目指したトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	いわき市立平第一中学校・新体操部	顧問・外部指導者氏名	顧問・山原奈々、加藤里奈 外部指導者・猪狩雄	電話/FAX	0246-23-1744 / 0246-21-4961	Email	Taira-jh@city.iwaki.lukushima.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動をとおして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を築く。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。		各部の活動目標 (1) 新体操という競技を通して、新体操に必要な体力や柔軟性、技術の向上を図るとともに、集団行動や他者への思いやり、協調性、礼節などの人間性を育む。 (2) 一人ひとりが目標を持ち、その目標達成に向けて、自ら考え、活動する態度を養う。			部員のニーズや要望・意見 (1) 新体操経験者と未経験者が混在しており、技能の差が大きく同じ練習をするのが難しい。 (2) 大会で勝ち進みたいと考えている部員と、運動に親しむことを目的としている部員の部活に対する意識の差も大きい。		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。		各部の指導方針 (1) 出場できる大会は年に4回と少ないので、年間を通して目的を持って活動できるよう、短期目標、長期目標と目標を持たせて、意欲的に部活動に取り組めるようにする。 (2) 部内での演技アストや発表会などを多く取り入れて、向上心を持って練習に取り組ませる。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 毎週月曜日を部活動休養日としている。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通夜や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体操・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 (1) 8～9月のシーズン期間は、柔軟性を向上させるトレーニングと演技指導を中心に行う。10月～2月のシーズンオフの期間は、柔軟性の他、持久力や運動技能全般の向上、手具操作の向上を目指した指導を行う。 (2) 年間を通しては、豊かな人間性を育み、望ましい人間関係を築くため、積極的な生徒指導を行う。			3部員とのコミュニケーションの方策 (1) 毎日、練習や試合を振り返り、感じた課題や成果をノートに記述。そのノートを週に一度提出し、顧問が一人ひとりに助言や励ましを行っている。 (2) 顧問が定期的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) 年4回の大会出場に向けて、外部指導者より練習内容や練習方法についてのアドバイスを頂きながら、練習を進める。 (2) 外部指導者や保護者との連携を密にして、共通理解のもとで部員の活動を支援する。			指導スタッフ間の連携 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部	体育祭 中間考査	期末考査	終業式	始業式		中間考査 音楽会	期末考査	終業式	始業式	期末考査	卒業式・修了式
各種大会の予定		協会主催大会	中体連地区大会	中体連県大会		地区新人大会						協会主催大会
練習試合・遠征等												
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	充実期	試合期	準備期	準備期	準備期	準備期	準備期	試合期
活動内容・ねらい	・体力・柔軟力を 向上させるトレ ーニング ・手具操作の技能 向上を目指したト レーニング	・大会に向けて演 技中心のトレニ ング	・大会に向けて演 技中心のトレニ ング	・大会に向けて演 技中心のトレニ ング	・体力・柔軟力を 向上させるトレ ーニング	・大会に向けて演 技中心のトレニ ング	・持久力・柔軟力 を向上させるトレ ーニング ・手具操作の技能 向上を目指したト レーニング	・持久力・柔軟力 を向上させるトレ ーニング ・手具操作の技能 向上を目指したト レーニング	・持久力・柔軟力 を向上させるトレ ーニング ・手具操作の技能 向上を目指したト レーニング	・演技作り	・演技作り	・大会に向けて演 技中心のトレニ ング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	いわき市立植田中学校・サッカー部	顧問・外部指導者氏名	顧問:小林智志、渡部達哉 外部指導者:大井川惠一	電話/FAX	電話 0246(62)3521 / FAX 0246(62)3523	Email	ueda-jh@city.iwaki.fukushima.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動をととして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。		サッカー部の活動目標 (1) サッカー部の活動を通して、健全な人間性の育成を図る。ピッチ上だけでなくピッチ外でよい習慣が定着するよう指導する。 (2) サッカーの楽しさや厳しさを教え、向上心を持ってサッカーに取り組めるよう指導する。「絶対に負けない」という戦う気持ちと弱音を吐かないたくましさをも身につけさせる。			部員のニーズや要望・意見 (1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。 (2) 定期審査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。また、通塾のため部活動の早退を希望する部員もいる。		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。		サッカー部の指導方針 (1) 個人個人を伸ばすことに重点を置く。生徒の課題を把握し、自ら解決していく強い意志と実践力を身につけさせ、チームとしての成長に繋げる。 (2) 指導者間でコミュニケーションを十分深めながら、質の高いトレーニングを行う。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		サッカー部の指導内容 (1) 日本サッカー協会指導教本の内容 (2) ナショナルトレセンU-12, U-14で実施した内容 (3) チーフインストラクター研修で学んだ内容			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。 (2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。		サッカー部の指導方法 (1) 月1回以上の校内スタッフ委員会を実施して、トレーニングテーマと内容を十分話し合い、トレーニングを行う。 (2) M-T-M方式を取り入れ、試合の中で何をできるようにすれば楽しく良い試合ができるか、課題を取り出してトレーニングし、試合で確かめる。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づいた練習内容や練習方法等の情報を入手する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 審査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生入部	体育祭 中間テスト	期末テスト	終業式	始業式		中間テスト	合唱コンクール 期末テスト	終業式	始業式	期末テスト	卒業式・修了式
各種大会の予定	いわき民報杯県リ ーグ	いわき民報杯県リ ーグ	市大会 県リーグ	県大会 県リーグ	県リーグ	ろうきん杯県大会 県リーグ	市新人大会	県新人大会		福島民友杯		県リーグ
練習試合・遠征等	1~2回遠征	合宿(2泊3日) 1~2回遠征	合宿(1泊2日) 1~2回遠征	1~2回遠征	合宿(1泊2日) 日立遠征	2~3回遠征	2~3回遠征	2~3回遠征	合宿(1泊2日) Jリーグ観戦	2~3回遠征	2~3回遠征	2~3回遠征
シーズン区分)	試合期	試合期	試合期	試合期	試合期	試合期	試合期	試合期	準備期	準備期	準備期	充実期
活動内容・おらい	・大会とととして 見えてきたチーム 課題の解決に向け たトレーニング ・基礎基本のトレ ーニングの徹底	・大会とととして 見えてきたチーム 課題の解決に向け たトレーニング ・基礎基本のトレ ーニングの徹底	・大会とととして 見えてきたチーム 課題の解決に向け たトレーニング ・基礎基本のトレ ーニングの徹底 ・チーム戦術のトレ ーニング	・大会とととして 見えてきたチーム 課題の解決に向け たトレーニング ・基礎基本のトレ ーニングの徹底 ・チーム戦術のトレ ーニング	・大会とととして 見えてきたチーム 課題の解決に向け たトレーニング ・基礎基本のトレ ーニングの徹底	・大会とととして 見えてきたチーム 課題の解決に向け たトレーニング ・基礎基本のトレ ーニングの徹底	・大会とととして 見えてきたチーム 課題の解決に向け たトレーニング ・基礎基本のトレ ーニングの徹底	・ボール操作を高 めるトレーニング ・筋力、全身持久 力の向上を目指し たトレーニング	・ボール操作を高 めるトレーニング ・筋力、全身持久 力の向上を目指し たトレーニング	・ボール操作を高 めるトレーニング ・筋力、全身持久 力の向上を目指し たトレーニング	・ボール操作を高 めるトレーニング ・筋力、全身持久 力の向上を目指し たトレーニング	・ボール操作を高 めるトレーニング ・筋力、全身持久 力の向上を目指し たトレーニング ・リーグ戦を戦う ための基本技術戦 術を向上させるト レーニング